

総合計画 後期基本計画 基本施策

施策一覧

1-1	健康づくりの推進	4
1-2	保健衛生体制の充実	6
1-3	地域福祉の推進	8
1-4	高齢者福祉の充実	10
1-5	障がい者福祉の充実	12
1-6	生活の安定と自立への支援	14
1-7	結婚、妊娠出産、育児支援の充実	16
1-8	子どもを育む環境の充実	18
1-9	質の高い保育・幼児教育の実現	20
2-1	担い手の確保と農地の有効利用	22
2-2	生産振興と販売力の強化	24
2-3	森林の保全と資源の活用促進	26
2-4	商工業の振興	28
2-5	市内事業者の経営強化	30
2-6	地域独自の観光資源の活用	32
2-7	戦略的な観光プロモーション	34
2-8	アウトドア・スポーツを核としたまちづくり	38
2-9	多様な働き方への支援	40
3-1	防災・減災対策の推進	42
3-2	地域消防力の強化	44
3-3	治山・治水事業の推進	46
3-4	防犯・交通安全の推進	48
3-5	消費者保護の推進	50
4-1	自然環境の保全	52
4-2	循環型社会の実現	54
4-3	脱炭素社会の実現	56
4-4	自然と発展が織りなすまちづくり	58
4-5	暮らしと調和する景観の保全	60
4-6	道路整備の推進	62
4-7	上下水道の安定経営	64
4-8	持続可能な公共交通の形成	66
4-9	良質な住環境の整備	68
4-10	移住・定住の推進	70
4-11	空き家対策の推進	72
5-1	学校教育の充実	74
5-2	家庭・地域との連携の推進	76
5-3	生涯を通じた学びの創出	78
5-4	スポーツを楽しむ環境の充実	80
5-5	文化・芸術活動の推進	82
5-6	歴史・文化遺産の継承	84
6-1	協働によるまちづくり	86
6-2	共生社会の実現	88
6-3	交流活動の推進	90
6-4	デジタル技術を活用した行政変革	92
6-5	市民の視点に立った行財政運営	94

1-1 健康づくりの推進

一人ひとりが自分の健康に関心を持ち、生涯を通じて健康づくりに取り組むことができる環境・支援体制を整備し、健やかで心豊かに生活できるまちを目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 健康づくりへの取組環境</p> <p>健康に暮らすためには、疾病予防や健康増進、介護予防などによって、平均寿命と健康寿命の差をいかに短くするかが重要です。</p> <p>このため、健康づくりに取り組みやすい環境や相談・支援体制の充実が求められます。</p> <p>一人ひとりが健康づくりに取り組み、心身の健康を維持・増進することは、生活の質の向上に加え、医療費や介護給付費など、社会保障費の抑制にも繋がります。</p>	<p>1st. 健康の維持・増進</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種健(検)診の受診率及び精密検査受診率の向上のため、市民への周知を徹底します。 健診結果データを活用し、生活習慣病の発症予防や重症化予防などの保健指導を実施します。 安曇野型食育を推進し、健康で豊かな人づくりを目指します。 こころの健康に関する正しい知識の普及啓発や相談体制の充実による自殺対策などについて、関係機関と連携しながら推進します。
<p>○ 特定健康診査受診率の向上が課題</p> <p>安曇野市の特定健康診査受診率は、国が示す目標値を下回っています。</p> <p>脳心血管疾患など重大疾患につながる生活習慣病を予防・早期発見し、国保加入者の医療費抑制を図るため、特定健康診査の受診勧奨を積極的に行う必要があります。</p>	<p>2nd. 特定健康診査の受診を勧奨</p> <ul style="list-style-type: none"> 働き盛りの若い世代にも受診しやすいよう休日健診を実施します。 過去の健診データから生活習慣病の高リスク者と判定された人には、積極的に受診を勧奨します。 特定健康診査の継続受診を推進し、健康状態の変化の把握を促します。
<p>○ スポーツによる健康増進が必要</p> <p>スポーツによる健康づくりを促進するためには、より多くの市民がスポーツへ参加することができる機会や環境を整備することが必要です。</p> <p>特に、中高年の健康維持や高齢者の介護予防のためのスポーツの取組について、市では様々な教室や体験などの機会を提供しています。</p> <p>このようなニーズはさらに高まると考えられ、これに対応できる行政機関や民間団体が相互に連携する体制を整える必要があります。</p>	<p>3rd. 気軽に参加できるスポーツの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 未経験者や親子がスポーツに取り組む機会を拡充するために、スポーツ教室や講座などの充実を図ります。 健康づくり活動に特典が得られるポイント制度を取り入れることで、健康づくりへの意欲を高める仕組みを構築します。 市民の健康づくりに向けた啓発を図るため、スポーツや身体活動に関する講演会、学習会などを開催します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
特定健康診査受診率（％）	40.8 (R2 確定値)	56	
特定保健指導実施率（％）	61.5 (R2)	60 (R7)	R2 年度は特に実施率が高かったことから、R 元年度以前の実績も踏まえ目標値を設定。（R 元年度：54.6％）
人口 10 万人当たりの自殺死亡者数（人）※自殺死亡率	18.0 (R2)	13.9 以下 (R8)	国の自殺総合対策大綱の内容をもとに目標値を設定。 H27 19.9 ⇒ R8 13.9 以下 R3 は R4.9 月に年間自殺者数が確定見込
軽スポーツ及び競技スポーツ体験会（教室など）の参加者数（人）	76 (R3)	200	市が実施する教室などへの参加者 軽スポーツ＝比較的に負荷がかからず、年齢に関係なく参加できるスポーツ。

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する 共生のまち	・ 誰もが健康で活躍できるよう、高齢者や障がい者、外国人が参加しやすい健康づくりプログラムを造成します。
アウトドア・スポーツ の聖地	・ 年代を問わずアウトドア・スポーツに触れられる機会を創出するため、誰もが気軽に歩き自然を楽しむことができるトレッキングなどのプログラムの充実を図ります。

1-2 保健衛生体制の充実

安心して必要な医療サービスが受けられるように保健衛生体制の充実を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 地域医療体制の維持が課題</p> <p>市民が夜間・休日でも医療が受けられる体制を維持するためには、市内医療機関などとの連携・協力が欠かせません。</p> <p>新興感染症やインフルエンザの流行下にあっても医療の質を確保するため、総合病院などへの患者の過度な集中を避ける必要があります。</p>	<p>1st. 地域の医療機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none">・ 地域医療体制の維持・継続のため、関係医療機関や医師会、歯科医師会、薬剤師会などとの連携を強化します。・ かかりつけ医やかかりつけ薬局を持つことの重要性について、周知を図ります。
<p>○ 産婦人科医の不足</p> <p>全国的に産婦人科医が不足しており、分娩医療体制を維持・確保することが困難な状況にありますが、産婦人科の医療体制を今後も維持・継続していく必要があります。</p>	<p>2nd. 松本医療圏での連携</p> <ul style="list-style-type: none">・ 「松本大北地域出産・子育て安心ネットワーク事業」を通じて、周産期医療体制について関係機関と連携しながら、持続可能な体制を確保します。
<p>○ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大</p> <p>令和2年から世界的に新型コロナ感染症の感染拡大がみられ、本市においても予防接種や検査などの対応が求められています。</p> <p>新型コロナウイルス感染症に対する体制確保に加え、新たな感染症への対策が必要です。</p>	<p>3rd. 感染症対策</p> <ul style="list-style-type: none">・ 感染症に対する正しい知識の周知と感染症予防・感染拡大防止に向けた啓発を行います。・ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止に対する体制の維持・確保に努めます。・ 新たな感染症が発生した際に備え、関係機関との連携を図り、感染拡大防止に向けた体制を整備します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
「医療体制が整っている」と回答した市民（％）	24.3（R4）	増加	市民意識調査
「お子さんのかかりつけの医師がいる」と回答した保護者の割合（％）	85.5（R3）	87.4	3歳児健診時アンケート

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

選ばれ続けるまち、安曇野

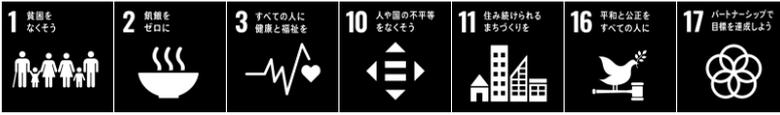
- ・ 休日や夜間に医療が受けられるように夜間急病センター事業や休日当番医制事業の継続を図ります。
- ・ 安心して出産ができるように松本医療圏で医療体制の確保を図ります。

1-3 地域福祉の推進

住み慣れた地域において、人と人がつながり、支え合う環境を構築することにより、安心して自分らしい生活を送ることができる地域共生社会を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 地域をとりまく福祉課題への対応</p> <p>福祉に関わる支援を必要とする人が増えている一方で、価値観や生活様式の多様化により、人と人とのつながりが希薄となっています。</p> <p>地域の支え合いの力の弱まりは、支援を必要とする方の孤立を招く要因になりえます。</p> <p>また、孤立だけでなく、介護や障がい、貧困、子育てなど複数の要因により支援を必要とする方も多く、多様な主体による連携が必要です。</p>	<p>1st. 地域における協力体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none">・ 引きこもりや高齢者の孤独死といった課題に対応するため、福祉団体、NPO 法人、民間事業者など様々な担い手が協力して課題解決を進めていく仕組みを構築します。・ 支援を必要とする方へのサポートを充実させるため、様々な福祉分野の機関や団体が連携して支援を行う重層的支援体制整備事業を推進します。
<p>○ 地域の福祉機関との連携が重要</p> <p>地域の福祉水準を上げていくためには、行政だけでは、実現困難な事業もあるため、地域の関係機関と連携し、福祉サービスを充実させ、地域福祉の課題を解決していくことが必要です。</p>	<p>2nd. 社会福祉協議会との連携</p> <ul style="list-style-type: none">・ 地域における福祉ニーズの把握や生活課題の解決に向けた取り組みを支援するため、地域福祉活動の拠点である社会福祉協議会との連携を強化します。
<p>○ 地域福祉を支える人材の育成が必要</p> <p>民生委員・児童委員が、地域住民からの相談対応や地域の一人暮らし高齢者宅などへの訪問、見守り活動などを行っています。</p> <p>ただ、民生委員や児童委員の情報共有の機会の少なさや相談スキルに関する不安といった声が挙げられています。</p>	<p>3rd. 民生委員・児童委員の活動支援</p> <ul style="list-style-type: none">・ 民生委員・児童委員が、各区長や社会福祉協議会、包括支援センターなどと連携体制を構築するため、情報交換の場の設営をします。・ 民生委員・児童委員協議会の運営やスキル向上のため、研修会への参加などを支援します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
「地域において、支え合える関係が築けている」と考える人の割合（％）	29.5（R4）	35.0	市民意識調査「満足している」、「まあ満足している」合算

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する 共生のまち	・ 地域の一員として、誰もが福祉の担い手として活躍できるよう、研修会などの支援を推進します。
選ばれるまち、安曇野	・ 地域福祉の推進により、誰もが役割と生きがいを持ち、安心して住み続けられる安曇野を実現します。

1-4 高齢者福祉の充実

高齢者が住み慣れた地域で、健康で生きがいと役割を持ち、安心して暮らすことができる地域社会を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 高齢者の増加による医療・介護需要の拡大</p> <p>安曇野市の高齢化率は、令和4年4月1日時点で31.6%となっています。団塊の世代が75歳以上になる2025年及び団塊ジュニア世代が高齢者になる2040年に向けて高齢化率は増加の一途をたどり、医療・介護などの需要の急増と介護ニーズの多様化・複雑化が予想されます。</p> <p>また、現役世代が急減することにより、医療・介護などの担い手不足が生じます。</p>	<p>1st. 地域包括ケアシステムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の権利の擁護を図るため、成年後見などに関する相談・支援体制を充実させます。 ・ 在宅生活を支える医療と介護の連携体制を強化します。 ・ 介護保険制度の適切な運用により、生活支援を切れ目なく提供します。 ・ 市民の協力を得て地域の課題に取り組む生活支援体制整備事業を推進します。
<p>○ フレイル予防と健康寿命の延伸にむけて</p> <p>令和4年7月に公表された安曇野市の健康寿命は、男性81.2歳、女性85.1歳で、平均寿命との差は、男性が1.6歳、女性が3.3歳となっており、平均を上回っています。</p> <p>高齢者が健康寿命を延伸するためには、身体機能や認知機能の低下がみられる状態である「フレイル」の進行予防が重要になります。</p>	<p>2nd. 保健事業と介護予防の一体的実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 筋力の低下や生活習慣病などが身体機能や認知機能の低下に強く影響を及ぼすため、保健事業と介護予防を一体的に実施し、フレイルの予防を図ります。 ・ 心身の機能低下などによる社会的な繋がり希薄化を防ぐため、オンラインなどを活用した住民主体の社会活動などの取組を支援します。
<p>○ 高齢者の生きがいや健康づくり</p> <p>高齢者がいきいきと暮らしていくためには、地域とのつながりや社会参加を通して生きがいを深めていくことが大切です。</p> <p>高齢者の閉じこもり予防や健康寿命延伸のためには、生きがいづくりや健康づくりに関する地域の活動の支援が重要です。</p>	<p>3rd. 高齢者の社会参加の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の社会参加を推進するため、教養を深め、仲間と趣味の活動やスポーツを楽しむ機会などを創出します。 ・ 高齢者が利用する各地域の福祉センターでのサービスを提供し、快適に利用できるよう運営に努めます。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
元気高齢者の割合（％）	90.1（R4）	90.4	65歳以上人口に対する要介護2以上の介護認定を受けていない65歳以上人口の割合
健康寿命（歳） 男性	81.2(R4)	82.2	健康寿命(平均自立期間(要介護2以上を除いたもの))
健康寿命（歳） 女性	85.1(R4)	86.1	健康寿命(平均自立期間(要介護2以上を除いたもの))
アクティブシニアがんばろう事業など補助金交付団体数（団体）	80（R4）	90	（事業概要）健康増進や介護予防につながる事業を補助することで、高齢者の地域コミュニティの形成を図り、活力あるまちづくりを促進する。

関連するデータ

介護新規認定原因疾患調査（市独自調査）

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する
共生のまち

- ・ 地域や職域で認知症の人やその家族を手助けする認知症サポーターを養成します。また、認知症サポーターのさらなる活躍を促進するための団体として、「チームオレンジ」を設置します。
- ・ シルバー人材センターやシニアクラブなどの活動を支援し、高齢者の活躍を促進します。

1-5 障がい者福祉の充実

障がいの有無に関わらず、お互いが地域の一員として認め合い、いきいきと安心して暮らすことができるまちを目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 地域全体での包括的支援が必要</p> <p>障がい者(児)が住み慣れた地域で安心して生活を送るために、日々の暮らしの中で抱えるニーズや課題にきめ細かく対応し、適切な支援につながる体制づくりが求められています。</p> <p>また、生活を支えるサービスなどにおいて、地域をあげた包括的支援を進めることが必要です。</p>	<p>1st. 適切な支援体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がい者が自立した生活を送ることが困難となった際の生活再建のため、相談支援の核となる基幹相談支援センターの機能を強化し、相談支援体制の充実を図ります。 障害を持つ人が地域の一員として安心して自分らしく暮らすことができるよう、市精神障がい者社会復帰施設や連絡会などと連携し、地域包括ケアシステムの構築を図ります。
<p>○ 障がい者の就職件数は増加傾向</p> <p>県内のハローワークを通じた障がい者の市内事業所への就職件数は、新型コロナウイルス感染症の影響を除けば増加傾向にあります。</p> <p>ただ、雇用側の社内理解やノウハウの不足、賃金水準が低くなる傾向があるなど、障がい者の雇用を推進にあたり、事業者の受入態勢をいかに充実させていくかが課題といえます。</p>	<p>2nd. 自立に向けた就労支援の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 就労を通じた社会参加を促進するため、企業などへ働きかけを行い、ハローワークとも連携し一般就労の拡大に取り組みます。 障がいのある就労者への支援や賃金水準といった各事業所が抱える課題に対し、基幹相談支援センターが中心となり、事業所間の連携体制を構築します。
<p>○ 障がい者の社会参加</p> <p>障がい者(児)が地域の一員として自立し、社会参加できる環境づくりを進めるため、障がいに対する理解の促進や障がい者差別の解消に向けた取り組みの継続が必要です。</p>	<p>3rd. 障がいに対する啓発などの推進</p> <p>障がい者に関する正しい理解を深める啓発活動を推進するとともに、手話奉仕員養成講座の開催や成年後見制度利用支援などを実施します。</p> <p>また、障がい者の社会参加を促すために、県障がい者スポーツ大会や県障がい者文化芸術祭への参加支援を行います。</p>



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
基幹相談支援センターへの相談件数（延べ件数）	1,524 (R3)	1,856	福祉行政報告例「市町村相談件数」の増減率から年4%の対応増加数を試算 ・相談件数に対応した体制を維持
就労移行支援を受けた一般就労移行者数（人）	6 (R3)	10	

関連するデータ

障がい者（児）数（安曇野市の統計）

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する 共生のまち	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者（児）の社会参加を実現するため、外出などの支援を継続し、地域活動や文化、スポーツなどの様々な活動に参加できるよう、地域や関係機関、団体と連携した体制づくりに取り組めます。 ・ 災害時に「誰一人取り残さない」ために、障がい者（児）や高齢者などの要支援者名簿への掲載や個別避難計画の策定に向け、危機管理課や福祉課、市社協と連携して取り組めます。
文化・芸術中核都市の 実現	・
アウトドア・スポーツ の聖地	・

1-6 生活の安定と自立への支援

経済的に困窮する方が抱える様々な問題や不安に寄り添うことで、自立と尊厳を保ち、健康で文化的な生活を送ることができると目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 生活困窮の要因が複雑・多様化</p> <p>社会経済情勢の変化やコロナ禍の影響により、生活困窮の要因の多様化が進んでいます。</p> <p>複雑化する個々の事情に応じ、生活に困っている人が気軽に相談できる環境を整えることが必要です。</p>	<p>1st. 相談支援体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活に不安を抱えている方の相談窓口である「まいさぼ安曇野」について、市民に広く周知していきます。 迅速かつ適切な支援につなげるため、関係機関や地域との連携を一層強化します。
<p>○ 生活の自立に向けた支援が必要</p> <p>第1のセーフティネットである社会保険制度や労働保険制度では、その支援対象とならない非正規労働者などの安定した生活を支えることが困難です。</p> <p>支援を必要とする方が孤立し、生活保護の受給などに至る前段階の支援として、自立支援を含む包括的な支援に取り組むことが求められています。</p>	<p>2nd. 生活困窮者自立支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活保護の受給などに至る前段階の支援として、生活困窮者自立支援制度(就労による自立に向け一定期間家賃相当を補助する住居確保給付金事業や、家計改善を指導する事業など)を活用し、問題解決を図るための支援に取り組めます。
<p>○ 生活保護世帯が増加傾向</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響などによる雇用環境の悪化を背景に、生活保護世帯数は令和2年以降、増加傾向にあります。</p>	<p>3rd. 生活の保障と自立の助長</p> <ul style="list-style-type: none"> 最後のセーフティネットとなる生活保護制度の公平・公正な運営に努め、最低限度の生活の保障とともに、就労支援やその他実情に応じた自立の支援を行います。
<p>○ 既存市営住宅の老朽対策が急務</p> <p>低所得者の生活の安定を図るため、市では、市営住宅を低廉な家賃で賃貸しています。</p> <p>ただ、市営住宅全体の約6割が、建設後40年を経過しており、施設全体の劣化が著しく、住宅環境の改善が求められています。</p>	<p>4th. 適切な維持管理と整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 長寿命化計画に基づく廃止・建替え・改修などを進め、住宅環境の改善を図ります。 新規入居を募集している団地については、長寿命化計画に基づく予防保全型の維持管理を実施します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
生活困窮者に対する相談支援件数（件）	431（R3）	450	まいさぼ安曇野及び安曇野市福祉課への相談件数の合計
生活困窮者支援に対する満足度の割合（％）	18.8（R3）	20.0	「満足している」「まあ満足している」の割合
良好な住環境が整備されている市営住宅住戸数（戸）	148（R3）	190	耐用年数未経過又は住戸改善対策済の住戸

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する
共生のまち

- ・生活困窮に陥りやすい高齢者や障がい者を守るため、生活困窮者自立支援制度や生活保護制度に基づく支援策を講じ、安定した生活に導きます。

1-7 結婚、妊娠出産、育児支援の充実

結婚や妊娠期から子育て期の家庭に寄り添った切れ目ない支援の充実により、安心して子どもを産み育てられ、すべての子どもが健やかに成長できるまちを目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 子育て環境の変化</p> <p>核家族化、共働き家庭の増加、ライフスタイルや価値観の多様化による地域とのつながりの希薄化など、子育てを取り巻く環境は大きく変化しています。</p> <p>このような環境変化に対応し、安心して子育てできるまちをつくるため、妊娠期からの切れ目ない支援が求められています。</p>	<p>1st. 切れ目ない母子保健対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心して妊娠・出産・育児が行えるよう、多様な課題を抱える子育て家庭への相談支援や産前産後におけるサービスの充実を図ります。 子どもが健やかに成長発達し、親が見通しをもって子育てに取り組めるよう、子どもの成長発達に応じた母子保健事業を実施するとともに、関係機関との連携体制を強化します。
<p>○ 子育てへの不安や負担</p> <p>妊娠期から乳幼児の子育て期は、育児への不安や負担感が特に生じやすい時期です。</p> <p>そのような時期に、子育てへの不安や負担を保護者だけで抱え込むことがないよう、相談機関の周知や個々の状況に寄り添った支援が必要です。</p>	<p>2nd. 子どもと保護者に寄り添う支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者が気軽に相談ができるよう、子育て相談窓口や関係機関などの周知に努めます。 子どもの健やかな発育・発達に必要な関わり方や対応などについて、保護者の気持ちを確認しながら、共に考え、支援します。 早期療育体制の充実により、子どもが健やかに成長できる環境を整えます。
<p>○ 不妊治療費の助成申請件数の増加</p> <p>不妊・不育症治療費助成事業の申請を行う夫婦が増加している中、申請年度内に不妊治療費助成を申請された夫婦の内、約3割で妊娠につながっています。</p>	<p>3rd. 不妊・不育症治療費に対する助成</p> <p>不妊不育症の治療費を助成することで、対象者の経済的な負担軽減を図ります。</p>
<p>○ 未婚率の上昇や晩婚化が進む</p> <p>出生数の減少が進む要因の1つとして未婚率の上昇や晩婚化が進んでいることが挙げられます。</p> <p>令和2年度の市民意識調査では、若年層(18歳～30代)が考える未婚化・晩婚化の要因は、「経済的不安」と「出会う機会のなさ」がおよそ半数を占めており、これらをいかに解決するかが課題といえます。</p>	<p>4th. 出会い、結婚を望む市民への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 長野県や県内市町村との広域的な連携により、結婚支援に取り組めます。 イベントなどの出会いの場の提供や個別相談・セミナーなどの支援を実施します。 若年世代の結婚支援として、結婚生活のスタートに係る経済的な負担の軽減を図ります。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
「育てにくさを感じた時に何らかの解決方法を知っている」と回答した3歳児の保護者の割合	89.9 (R3)	92.1	3歳児健康診査時のアンケート
むし歯のない3歳児の割合（％）	90.1 (R3)	91.0	厚生労働省「すこやか親子21」健康水準の指標
新婚生活サポート件数（件）	—	30	R5年度より開始

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する 共生のまち	・ 早期療育体制の充実により、全ての子どもが健やかに成長できる環境を整えます。
選ばれ続けるまち、安曇野	・ 安心して子どもを産み育てられ、すべての子どもが健やかに成長できるよう、妊娠期から子育て期にかけて切れ目ない支援の充実を図ります。

1-8 子どもを育む環境の充実

子育て期間の切れ目のない支援体制を整え、国籍の違い、障がい、病気、貧困などを問わず、すべての子どもが健やかに育まれるまちを推進します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 子育て負担の増加や子育ての孤立化</p> <p>核家族世帯や共働き世帯が増加するなど、社会状況の変容に伴い、子育て負担の増加や孤立化が進行しており経済支援や子育ての不安に対する相談体制の整備が要望されています。</p> <p>このような中、子育てサークルなど、子育て中の保護者が集い、育児に関する情報交換や交流をできる場が求められています。</p>	<p>1st. 相談窓口や情報交換の場を創出</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て総合相談窓口を設置し、子育ての悩みを気軽に相談ができる体制を整備します。 乳幼児や保護者が交流する場を提供するため、児童館などの活用を図ります。 幼稚園の空き教室などを活用し、未就園児を対象とする子育て拠点の設置を検討します。 子育てアプリなどを活用し、子育ての情報発信に努めます。
<p>○ 仕事と子育ての両立が課題に</p> <p>令和3年度に実施した市民意識調査では、「子育てしやすいまちにするために必要だと思うもの」に対し、「仕事と子育ての両立支援」に次いで「子育て世帯に対する経済的支援」が必要であると挙げられています。</p> <p>核家族世帯や共働き世帯の増加により、保護者の就労環境やニーズが変化する中、仕事と子育ての両立を支援するとともに、子育て世帯の経済的負担をいかに軽減するかが課題といえます。</p>	<p>2nd. 仕事と子育ての両立と経済的支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て世帯への就労支援のため、全ての放課後児童クラブで、小学6年生までの受け入れを行います。また、負担金額を見直し、経済的負担の軽減を図ります。 市独自の施策として、要件を満たす多子世帯に対し、子育て応援手当を支給します。 ひとり親家庭の保護者の就業を支援するため、自立支援給付金の支給を行います。 子育てサークルの活動を支援するため、施設の利用料の減免などを実施します。
<p>○ 特別な配慮や援助を要する子どもが増加</p> <p>発達に係る個々の特性に加え、家庭環境や社会状況、文化的背景などの要因から、特別な配慮や社会的援助を要する子どもの数が増加しています。</p> <p>安曇野市に暮らす全ての子どもの健やかな育成を支援するために、国籍や言語の違い、障がいや病気、貧困の有無に関わらず、多様な状況におかれた子どもに対応ができる体制が必要です。</p>	<p>3rd. 多様な課題に沿った支援体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての子どもたちが安心して生活できる支援に取り組むため、障がいや発達特性を持った子どもたちに対する療育に加え、受入環境の整備を推進します。 生活困窮家庭の子どもへの学習支援や医療的ケアが必要な子どもの保護者からの一次相談窓口の設置、家事や家族の世話などを日常的に行う子どもへの支援を行います。
<p>○ 子どもの医療費にかかる経済的支援が必要</p> <p>子どもの健全な育成支援にあたり、医療費に対</p>	<p>4th. 子育て家庭への医療費補助及び助成</p> <ul style="list-style-type: none"> 18歳到達年の年度末までの児童について、

する子育て世帯の経済的不安を減らし、安心して医療機関を受診できる環境を整備する必要があります。

医療機関などでの窓口負担を1レセプト(月単位での診療報酬)当たり最大 500 円で受診することができるよう、医療費を助成します。

- ・ 妊婦・小児インフルエンザ予防接種費用の助成を行い、経済的な負担軽減を図ります。



■ 指標・目標値

指標項目 (単位)	R4 現状値	R9 目標値	備考
市の各種子育て相談窓口の認知度	88.0% (R3)	89.0%	乳幼児健診時のアンケート (3歳以下が対象)
【戦略】出産・子育てがしやすいまちと思う市民の割合 (%)	38.5 (R3)	38.4	総合戦略KPI 市民意識調査で「満足」、「やや満足」と回答した者
【戦略】6年生まで受け入れる児童クラブ数	2 (R3)	10	総合戦略KPI 全ての児童クラブにおいて6年生まで受け入れ
「この地域で子育てをしたい」と回答した3歳までの子どもの保護者の割合	97.9 (R3)	99.2	乳幼児健診時のアンケート (3歳以下が対象)

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する 共生のまち	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な事情を持つ子どもが増える中、全てのこどもが安心して成長できるよう療育や支援の整備を充実させます。 ・ 生活困窮家庭への学習支援に取り組み、誰もが子育てしやすい環境をつくります。
選ばれ続けるまち、安曇野	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての児童クラブで6年までの受入れを実現し、子育てしやすいまちづくりを推進します。

1-9 質の高い保育・幼児教育の実現

多様化する保育・教育ニーズに対応するため、保育環境の整備と保育士の資質向上を図ります。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 3歳未満児の利用が増加</p> <p>少子化が進む一方で、共働き世帯の増加などを背景に、3歳未満児の保育ニーズは増加しています。ただ、0歳児、1歳児については、申込数が多く受け入れができないケースもあります。</p> <p>また、働き方の多様化により、突発的な保育ニーズも増加しています。</p>	<p>1st. 受け皿の確保を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3歳未満児の保育ニーズに対応するため、空き教室を活用した受入れや、小規模保育事業所の設置を行い、受け皿の確保を図ります。 ・ 一時的、突発的な保育ニーズに対応するため、一時預かりや病児・病後保育の体制を充実させます。
<p>○ 自然を活用した保育</p> <p>県が推進する「信州型自然保育認定制度」において、安曇野市内全ての認定こども園が認定(普及型)を受けています。</p> <p>さらに安曇野市では、保育に安曇野ならではの自然体験を取り入れ、考える力や身体機能の発達、自然に対する学びや感謝の心を育む「あづみの自然保育」を推進しています。</p> <p>ただ、推進には地域の協力は不可欠であり、本取組に対する地域の理解が必要です。</p>	<p>2nd. 「あづみの自然保育」のブランド化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「あづみの自然保育」を推進し、安曇野を代表するコンテンツとしての確立を目指します。 ・ 「あづみの自然保育」に対する市民の理解を促進し、地域一体となって推進できる基盤づくりを推進します。 ・ 保育士資格のある地域おこし協力隊を起用し、「あづみの自然保育」のブランディングと移住・定住の促進を図ります。
<p>○ 保育サービスの多様化が必要</p> <p>安曇野市には、公立認定こども園が18園、公立幼稚園が1園、私立認定こども園が2園、私立保育所が1園あります。</p> <p>多様化する保育ニーズへの対応を図るため、園の特色を出し、ニーズに応じて園を選択できる環境づくりが求められています。</p>	<p>3rd. 特色ある保育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様性のあるサービス提供を進めるために、民間活力を活用し、園の民営化を進めます。 ・ 公立園では、自然保育のフィールドや幼児教育などに多様性を持たせることで、特色ある保育環境の整備を推進します。
<p>○ 保育士の残業の多さや離職率の高さが課題</p> <p>保育士の業務は、保育以外に事務作業や保護者対応など多岐に渡るため、休暇取得ができない、残業が多いなど業務環境の改善が求められています。また、それによる離職率の高さが問題となっています。</p>	<p>4th. 保育士の業務環境の改善を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公立認定こども園、公立幼稚園に ICT システムを導入し、業務の効率化を図り、保育士が働きやすい職場環境づくりに努めます。 ・ ICT の導入により、園児の体調やケガの連絡など保護者との連絡体制を強化します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
【戦略】待機児童数（人）	0（R4）	0	総合戦略KPI 4月時点の数値 潜在的待機児童を除く。
公立こども園民営化（園）	1（R3）	3	
ICT活用（保育士・保護者）（%）	25（R3）	95	

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する 共生のまち	・全てのこどもが安心して成長できるよう公立園における受入体制を整備します。
選ばれ続けるまち、安曇野	・安曇野自然保育の情報の発信、ブランド化により若い世代の移住、定住を推進します。

2-1 担い手の確保と農地の有効利用

農地を維持、保全をするため、多様な担い手の確保を目指して、経営の世代交代支援、新規就農者の確保・育成を図ります。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 農業従事者の減少が続く</p> <p>農業従事者の高齢化により、農業従事者が減少しています。</p> <p>後継者候補がいても、収益性の低さや負担の大きさといった理由から、経営規模が小さくなるほど後継者に農業を継がせることが難しい状況にあります。</p> <p>また、農業従事者のうち、女性の占める割合が少ない傾向にあります。女性農業者が抱える課題として、農業技術の習熟や子育てとの両立などがあり、女性農業者が活躍できる基盤づくりを進める必要があります。</p>	<p>1st. 農業者の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな担い手を確保するため、支援窓口を充実させるとともに、住まいや農地の確保などのスタートアップ支援を充実させます スマート農業の導入を支援し、効率的な営農を促します。 南安曇農業高などの学生に対する職農教育として、新商品開発プロジェクトなどを共に展開します。 女性が農業に関わりやすい環境づくりを推進するため、女性を対象とした体験講座の開催や交流の場の創出を図ります。
<p>○ 耕作面積は一定の水準を維持</p> <p>農家が減少する一方で、農地の集約などにより、耕作面積は維持されています。</p> <p>このため、法人や認定農業者などを支援し、地域全体で農地の最適利用を進める必要があります。</p> <p>また、安曇野の田園風景は市の財産であるという認識のもと、市民全体で農地を保全していく必要があります。</p>	<p>2nd. 多様な就農スタイルを支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 集約された優良農地の担い手である経営体の運営を支援し、生産性の高い営農を推進します。 遊休農地の活用を図るため、定年後に就農する方の確保や、農業と就業などを両立する半農半Xといったライフスタイルを支援します 市民農園の活用を促進し、市民が様々な形で農業に関わる機会を提供します。
<p>○ 農地の多面的機能に期待</p> <p>農地は、農業が営まれることにより、水が地下に浸透し、水質を浄化するなど多面的な機能を発揮します。</p> <p>農地や農業用水などの農業基盤や農村環境の保全を図るため、地域住民などが主体となる地域ぐるみの活動が求められています。</p>	<p>3rd. 多面的機能の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> 農地が持つ多面的な機能を維持するため、地域住民による地域活動の支援や資源の保全活動を支援します。 農地や水路、農道の保全活動や老朽化した農業用施設の維持補修、更新工事の促進を図るとともに、地域住民が主体となる活動を支援します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
【戦略】新規就農者数	11 (R3)	10	総合戦略 K P I
【戦略】認定農業者数	295 (R3)	270	総合戦略 K P I
市民農園利用者数	184 (R4)	242	
多面的機能取組面積 (ha)	3,643 (R3)	3,850	

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する 共生のまち	・ 女性農業者が抱える課題の解消を図り、女性が就農しやすい環境づくりを推進します。
選ばれ続けるまち、安曇野	・ 移住者の就農や半農半Xなど多様な就農スタイルを支援することで、農地の保全と美しい田園風景の維持に取り組みます。

2-2 生産振興と販売力の強化

農家の生産活動を支援するとともに、農産物や加工品の販路拡大やブランド化を図ることで、農家が稼げる支援を行います。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 農業産出額は上昇傾向</p> <p>安曇野市では、米の農業産出額が高く、次いで果実、野菜が続いており、これらの産出額は上昇しています。</p> <p>ただ、米価は下落傾向にあり、生産活動を維持していくためには、農産物の質の確保が求められています。</p> <p>また、安曇野の特色を生かした農産物や有機農法を振興することにより、他地域との差別化を図ることが重要です。</p>	<p>1st. 農産物の生産の維持と質の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域全体の生産活動を維持するため、生産の技術的課題の解決に取り組みます。 ・ 市の主要作物である米の一など米比率の向上のため、関係団体と連携し取り組みます。 ・ わさびや夏秋イチゴ、玉ねぎなどの地域振興作物の栽培促進や省力化作物・栽培の導入を通じて、地域全体の生産活動を支援します。 ・ 安曇野を代表する水産物である信州サーモンやニジマスの生産を支援します。 ・ 有機農法の推奨により、付加価値の高い農産物の産出を推進します。
<p>○ 先細りする国内市場</p> <p>人口の減少に伴い、国内市場の縮小が続いています。先細りする国内市場を踏まえ、「選ばれる農産物」をどのように作っていくかが問われています。</p> <p>このため、都市部に加え、海外市場への販路拡大をいかに行っていくかが重要です。</p>	<p>2nd. 販促プロモーションの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内農家の販路の拡大や開拓を支援するため、都市部における市産農産物や加工品のPRを推進します。 ・ 海外販路の開拓にあたり、市産の農産物や加工品を、海外のバイヤーや事業者を通じて売り込みを行います。
<p>○ 直売所への出荷実農家の減少が危惧</p> <p>直売所の利用者数や売上高は上昇傾向にある一方で、出荷実農家数(生産者数)は横ばいが続いています。</p> <p>今後は、高齢化により出荷実農家数(生産者数)の減少が懸念されます。このような中、直売所が安定して経営していくためには、いかに農産物の販売量・流通量を確保するかが課題です。</p> <p>また、直売所は、生産者や購入者にとってのコミュニティの場としても重要な施設でもあります。</p>	<p>3rd. 農産物直売所の魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地産地消の推進により、地物野菜の購入を促し、出荷実農家の収入の確保を図ります。 ・ 直売所からの情報発信を促進するとともに、直売所同士の連携を促し、商材確保などの課題解決を推進します。 ・ 交流機会の提供や地産地消の推進、来訪者への農産物PRを通じて、直売所が有するコミュニティの場としての機能を促進します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
通販サイト出展支援件数（件）	10（R3）	15	
農業産出額（千円）	（R3）		
【戦略】産直センター販売額（千円）	10,405（R3）	15,878	総合戦略KPI

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

選ばれ続けるまち、安曇野	<ul style="list-style-type: none"> 地域の直売所と連携し、農産物の地産地消を促進することで、地元の新鮮な農産物が手に入る環境を市内外に向けてPRしていきます。
AZUMINO ブランドの世界発信	<ul style="list-style-type: none"> 都市部への安曇野市農産物のPRを通じ、安曇野産農産物のブランド化を図ります。 海外販路の開拓を行い、地域の農産物を安曇野ブランドとして育成・発信していきます。

2-3 森林の保全と資源の活用促進

森林の適切な管理や森林資源の有効活用を推進し、森林の持つ多面的機能を発揮させることで、持続可能な森林づくりを目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 持続可能な森林管理が求められる</p> <p>カーボン・ニュートラルを推進するうえで、森林が持つCO²の吸収や木材利用による炭素固定などといった機能は大きな役割を持っています。</p> <p>市内の民有林における人工林のうち、概ね50年生を超えた森林が全体の8割以上を占めており、その多くは成熟し、利用時期を迎えています。</p> <p>この森林を「伐って、利用して、植える」という持続可能な循環利用の確立が求められています。</p>	<p>1st. 森林整備の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林環境譲与税を活用した森林経営管理制度により、未整備森林の森林整備を促進し、持続可能な森林管理を推進します。 松くい虫被害対策を計画的に実施します。 利用時期を迎えている森林の伐採を、公共施設などの木材利用と合わせて実施します。 伐採後の植林を実施し、森林の若返を図り、森林によるCO²の吸収量の増加を図ります。 森林整備業務の発注により、林業従事者数の確保を図ります。
<p>○ 放置される森林が増加</p> <p>森林の中の人里近くに広がる里山は、私たちが生活するうえで大切な資源採取の場所でした。</p> <p>しかし、生活様式の変化により森林の利用が減り、放置された森林が増加した結果、森林が持つ公益的な機能の損失や土砂災害の危険性の高まりなど、様々な問題が生じています。</p> <p>この問題を解決するには多くの人が森林に関心を持つことが必要です。</p>	<p>2nd. 里山再生計画「さとぷろ。」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> より多くの市民が里山に関心を持ってもらうため、里山再生計画「さとぷろ。」を推進します。 さとぷろ。の活動を多くの方に知っていただくため、SNSなどでの発信、「さとぷろ。サポーター」による情報発信を推進します。 各取組の連携調整の土台となる組織体制を構築します。
<p>○ 有害鳥獣による農作物被害が増加</p> <p>有害鳥獣被害は増加傾向にあり、農作物の被害に加え、サルによる家屋への侵入など人的被害も増加しています。</p> <p>山際における里山の放置により、動物と人間との緊張関係が失われ、野生鳥獣の生息域が里地まで広がったことがその主な要因と考えられます。</p> <p>また、捕獲の担い手である狩猟者の減少と高齢化により、狩猟者の確保が課題となっています。</p>	<p>3rd. 有害鳥獣対策の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> サル被害対策として、GPSでサルの行動範囲を把握し、地元と連携した追払いなどを実施します。 里地への有害獣の出没を防ぐため、緩衝帯の整備を進めます。 有害鳥獣対策の従事者を確保するため、狩猟免許の取得を支援します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
森林経営管理制度取組面積（ha）	123（R3）	600	意向調査実施面積
未整備森林の整備面積（ha）	0（R3）	50（R8）	森林経営管理制度による。
【戦略】さとぷろ。サポーター数（人）	309（R3）	550	総合戦略KPI
新規狩猟登録者数（人）	8（R3）	50	5年間の累計
【戦略】林業従事者数	47（R3）	52	総合戦略KPI

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

アウトドア・スポーツの聖地

・安曇野市里山再生計画「さとぷろ。」による里山魅力発見プロジェクトを実施し、里山での自然観察などを開催します。

2-4 商工業の振興

商店街の活性化によりで市民に魅力あるまちづくりにつなげるとともに、高い技術力で持続的に成長するものづくり産業の実現を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 商店街の衰退</p> <p>商店街は、地域を支える生活基盤であるとともに、地域コミュニティの場としても重要な役割を担っています。</p> <p>しかし、大型店との競合や経営者の高齢化、電子商取引の普及などにより、商店街の空洞化が進んでいます。</p> <p>また、商店街へ人の流れを呼び戻すためには、商業機能以外のサービスの提供や身近な交流の場といった、新たな役割が期待されています。</p>	<p>1st. 関係団体や観光施設との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商店街振興組合や市民団体などの取組を支援し、商店街の活性化を促します。 ・ 観光施設と商店街との回遊性の向上を図るため、市観光協会や市商工会と一体となった誘客活動に取り組みます。 ・ 市内商店街の現状分析を行い、商店街活性化のための新たな手法を検討します。
<p>○ 国内市場や競争の激化</p> <p>製造業を取り巻く環境は、国内市場の縮小や国内外の競争激化など厳しい状況が続いています。</p> <p>このような中で、域外から仕事を獲得して域内へ展開する役割を担う地域のけん引役となる企業の存在は、市内の製造業の発展に不可欠です。</p> <p>このため、地域のけん引役となる企業の支援体制の充実が重要になります。</p>	<p>2nd. 地域をけん引する企業への補助</p> <p>企業の労働生産性の向上を図るため、生産設備の導入に要する費用を補助します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 製造業の業務の効率化と生産性の向上に向けた取組を支援するため、AI や IoT など最先端技術の導入を支援します。
<p>○ 企業誘致にあたっての課題</p> <p>工場や本社機能などの誘致は、人口の増加や地域の雇用を生む大きな要因となります。このため、新たな産業団地の造成により、企業誘致を進める必要があります。</p> <p>また、市内企業が事業規模の拡大を検討しても、法令などの制限により実現できない事例も見受けられるため、自然環境の保全を考慮しつつ、規制緩和を検討する必要があります。</p>	<p>3rd. 企業誘致や内発的展開の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな産業団地の造成などの受け皿の確保や企業立地の見直し、支援策の充実により、企業の誘致や内発的展開を図ります。 ・ 各種規制への緩和措置などの具体的な方向性について、庁内で協議を進めます。 ・ 支援機関との情報交換や企業へのヒアリングを通して情報収集に努め、空き事業用地の情報を随時公表します。 ・ 企業立地に関する条例の見直しなどによる規制緩和の方向性を検討します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
商業事業所数（事業所）	717(R3)	700(R8)	
工業事業所数（事業所）	206 (R2)	230	経済センサス
【戦略】企業誘致数（社）	4 (R3)	5	【総合戦略 KPI】

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

選ばれ続けるまち、安曇野	・ 産業振興による雇用の創出に努め、安曇野の発展を推進します。
AZUMINO ブランドの世界発信	・ これまで培ってきた技術を次世代に繋ぎ、さらに伸ばしていくことで持続的に成長し、世界市場から求められる地域となることを目指します。

2-5 市内事業者の経営強化

市内事業者に対するICT化支援や新製品・新技術の開発支援、展示会への出展支援などを通じて、生産性の向上や新規顧客の獲得を促します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ DX や ICT 化の導入が課題</p> <p>市内企業を対象にしたアンケート結果では、DXの推進によりビジネスモデルの変革を行っている事業者は2割以下と少ない現状にあります。</p> <p>また、DXの推進以前に、ICTの導入が進んでいない事業者も多く、事業者のステップに応じた支援を行う必要があります。</p>	<p>1st. ICT化や最新技術の導入を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 業務のICT化やキャッシュレス化を支援し、生産性を高めるため、導入費用の補助や導入に関するセミナーなどを開催します。 ・ AIやIoTなどの技術の導入に対する補助事業や導入に向けたセミナーを開催し、企業の効率性や生産性の向上を図ります。
<p>○ 新製品・新技術が生むメリット</p> <p>新技術や新製品の開発は、顧客層の拡大や生産性の向上に加え、新分野進出や製品の高付加価値化など様々なメリットを生む要因になり得ます。</p> <p>市内企業に対する新技術などの開発支援は、市の発展に直結するため、市として積極的に取り組む必要があります。</p>	<p>2nd. 新製品・新技術の開発を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内企業の新製品・新技術の開発を支援するため、開発費用を補助します。 ・ 支援機関と連携した伴走型支援により、効率的・効果的な支援を実現します。
<p>○ 地域内企業の情報不足が課題</p> <p>中小企業は、高い技術力を有していても、単独では大企業との直接取引やBtoCによる製品販売に至らないことがあります。</p> <p>この解決には、地域内連携によるイノベーションの促進に加え、規模や顧客層の拡大といったメリットを生かすことが有効な手段です。</p> <p>しかし、「地域内企業の情報不足」を課題として挙げる事業者が多い現状にあります。</p> <p>また、企業間の連携だけでなく、大学や金融機関との連携を促すことも重要です。</p>	<p>3rd. 地域内連携や産官学金連携を強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域内の企業の連携を促すため、地域の企業が情報交換を行う場を積極的に設けます。 ・ 企業間連携により、新たな事業にチャレンジする中小企業への補助制度を検討します。 ・ 技術開発や新事業の創出を促すため、市が包括連携協定を締結している信州大学や松本大学といった学術機関や、金融機関との連携の構築を検討します。
<p>出展者のうち半数が顧客獲得に至らず</p> <p>市内製造業者を対象としたアンケート結果では、過去3年間に展示会へ出展した市内の製造業者は約3割であり、そのうち約半数は新規顧客の獲得に至っていないのが現状です。</p> <p>その課題として、「営業力の不足」や「参加に関</p>	<p>4th. 展示会への出展支援とPR力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 展示会を通じた新規顧客の獲得を支援するため、プレゼンテーションなどに関する講座を開催します。 ・ 展示会への出展経験が少ない事業者を対象に、専門家によるアテンドを実施します。

<p>するノウハウの不足」、「参加資金の不足」などが挙げられており、製品の PR 力向上や出展に対する費用負担の軽減が求められています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市内企業を対象に、展示会への出展費用を補助することで、販路拡大や新たな顧客とのマッチングを支援します。
<p>○ BCP(事業継続計画)の策定は約3割</p> <p>市内事業者を対象としたアンケート結果では、BCP を策定している事業者は約3割と少なく、緊急時における企業活動の維持が課題です。</p>	<p>5th. BCP の策定を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害発生時などの緊急時における継続的な企業活動を担保するため、BCP の策定に向けた相談体制や啓発活動の充実を図ります。
<p>○ SDGs が世界的に推進される</p> <p>世界的に SDGs の推進が取り組まれている中、企業活動においても、「環境」、「社会」、「経済」の3側面を踏まえた SDGs が、企業の経営戦略としても有効とされています。</p> <p>SDGsの推進によるメリットや事例の周知により、市内企業における SDGs の推進を図る必要があります。</p>	<p>6th. SDGs を踏まえた経営戦略を促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業などが経営戦略として SDGs を活用し、持続可能な経営への転換や企業価値の向上、競争力の強化などを図ることを支援する「長野県 SDGs 推進企業登録制度」への認証取得を促進します。 SDGs に関するセミナーを、専門家や支援機関と連携して開催します。



■ 指標・目標値

指標項目 (単位)	R4 現状値	R9 目標値	備考
製造品出荷額など (億円)	3,983(R3)	5,192 (R7)	
新技術・新製品の件数 (件)	3 (R3)	5	
展示会出展企業数 (社)	3 (R3)	14	
SDGs 推進企業数 (社)	45 (R3)	100	県認証



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

<p>選ばれ続けるまち、安曇野</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新技術や新サービスの開発により、世界トップクラスの企業をはじめとする多くの顧客からパートナーとして常に選ばれる企業の育成を支援します。
<p>AZUMINO ブランドの世界発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新規事業分野の開拓により、グローバルニッチトップ企業としての地位を確立する企業の育成を推進します。

2-6 地域独自の観光資源の活用

本市が誇る観光資源の磨き上げと活用を図り、観光客の受入体制整備を強化することで、国内外の観光客の満足度向上を図ります。また、生活と調和した観光を推進し、市民の豊かさにつなげます。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 観光消費額の増加が課題</p> <p>持続可能な観光を進めるために、観光客による消費を地域産業へと波及させる仕組みづくりが重要です。</p> <p>安曇野独自の地域資源を活用した付加価値の高い体験型観光の充実や、食の魅力向上や観光特産品開発による、観光消費額の増加を図ることが必要です。</p>	<p>1st. 地域資源の磨き上げと活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 天蚕や東山ロングトレイルなど、新たな観光資源となりうる原石を磨き上げ、観光商品化を目指します。 体験や地域資源の組み合わせによる新たな魅力創出や高付加価値化を図り、観光地としての安曇野ブランドの向上を図ります。 温泉の活用を図るため、市内温泉施設の連携強化や、市営宿泊施設の活用を検討します。 食の魅力発信につながる地元食材を活用した新たなメニュー開発や土産品の開発支援や販売促進を行います。
<p>○ 二次交通などの整備が課題</p> <p>観光の移動手段の多くがマイカー利用であり、交通の不便さが顕在化し、結果的に滞在時間の短さにも影響を与えています。</p> <p>このため、長時間・長期滞在型観光に寄与する二次交通の整備が求められます。</p>	<p>2nd. 受入体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光の移動手段の利便性向上を図るため、交通事業者などと連携し、新たな二次交通の検討やシェアサイクルの利用促進、観光客向けの駐車場の利用改善などを行います。 外国人観光客に対応するため、地域通訳案内士の活用や、観光案内版の一元化と多言語表示、ピクトグラム統一などを進め、すべての人が楽しめる観光地づくりを推進します。
<p>○ 来訪者満足度の向上が重要</p> <p>市民が温かく観光客を迎え入れ、市民と国内外からの観光客との交流を深めることで、観光の質を高めます。</p> <p>市民、観光客、事業者の満足度を向上させることは、市内の経済効果の波及にも寄与することから、市内観光の満足度向上により市民の豊かな暮らしにつなげていく必要があります。</p>	<p>3rd. 観光人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規事業者への創業支援や、観光誘客をさらに推進するための専門人材など、マネジメント・マーケティング能力を有する観光プロフェッショナル人材の登用・育成をします。 産学官連携による観光ガイド育成講座の開設や、地域での雇用創出や創業を促すための、観光ガイド斡旋組織を設立し、受入の仕組み

	<p>づくりを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校での観光学習の機会創出や市民向けおもてなし講習会などにより、地域を挙げた観光ホスピタリティの定着を図ります、
<p>○ 社会経済情勢の変化への的確な対応</p> <p>当面は、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、感染症によるニーズの変化を捉えた国内・県内観光の需要獲得が求められます。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症収束後のインバウンド需要の回復を見越して、ウィズコロナ・ポストコロナに対応した持続可能な観光地経営が求められます。</p>	<p>4th. 持続可能な観光地の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 戦略的な観光振興を進めるため、観光地ブランドの確立、観光DX、サステナブルツーリズムの推進を図ります。 観光地経営の視点に立った観光推進組織の体制強化や、BCP 対策の強化、新たな旅行ニーズへの対応、農水産物などの域内調達といった市内観光事業者の事業継続などに向けた支援を行います。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
【戦略】観光消費額（億円）	67 (R2)	120 (R8)	総合戦略K P I
来訪者満足度（％）	82 (R3)	82	大変満足、満足を合算した割合
山岳遭難発生件数（件）	22 (R3)	20	

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

<p>AZUMINO ブランドの世界発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> 安曇野の多様な歴史・伝統・文化を踏まえた観光地ストーリーを構築することで観光地ブランドを確立し、世界に発信するとともに、市民のアイデンティティや誇りの醸成を図ります。 天蚕の希少価値を高め安曇野ブランドとして国内外に発信します。
--------------------------	---

2-7 戦略的な観光プロモーション

本市の魅力を発信するイベントの開催、広域・各団体連携による関係人口創出や交流人口拡大を図ります。また、今後の観光需要を捉えた戦略的な観光プロモーションを展開し国内外の観光客の誘客及び滞在時間の延伸を図ります。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ リピーターの獲得が課題</p> <p>旅行前から旅行後まで一貫したプロモーションにより、旅の満足度向上と安曇野市への再来訪を促し、コアな安曇野ファンの獲得を図る必要があります。</p>	<p>1st. 関係人口の創出と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺市町村との広域連携や友好都市との交流強化、信州まつもと空港の利用促進、都市部からの企業旅行誘致、リゾートテレワークの推進などにより誘客に取り組みます。 ・ Web、SNSなどデジタル媒体の積極的な活用、コアな安曇野ファンなどから来訪者に共感を生む情報発信の仕組みづくりに取り組みます。 ・ 観光DX推進を図り、新たな技術・方法を活用し、旅行前から旅行後までマーケティング戦略に沿った効果的・効率的な情報発信に取り組みます。 ・ 安曇野を舞台にしたドラマ・映画・アニメを誘致・支援するフィルムコミッションの機能を充実させ、メディア掲出による市の認知度向上につなげ、安曇野ファンの拡大を図ります。
<p>○ 滞在時間の短さが課題</p> <p>月別の利用者動向を見ると、冬季間の利用ができない山岳系の観光を除き、おおむね通年で観光利用がされています。</p> <p>特に春から夏、秋にかけて比較的高い観光需要と長い観光利用期間を有しています。</p> <p>一方で、主な滞在・滞留動向が国道やJR大系線など南北の主要交通軸に沿っていることから、市内観光地を複数巡る周遊観光が少ない傾向があり、滞在時間の短さが課題となっています。</p>	<p>2nd. 観光交流人口の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時季を捉えた観光キャンペーンや特典付与などにより、市内の回遊性を高め、満足度向上や再来訪を促す取組を行います。 ・ 信州安曇野ハーフマラソンや、安曇野花火などの満足度向上に取り組みます。 ・ コアな安曇野ファンに向けたイベントを開催します。 ・ 将来の観光需要を見据え、e スポーツ大会など若い世代を対象にした新たなイベントなどの誘致・開催を目指します。

<p>○ 通過型観光から滞在型観光への転換が課題</p> <p>新型コロナウイルス感染症により、宿泊者数が減少しました。なお、コロナ禍前でも、市内の延べ宿泊者数は減少傾向にありました。一方で、宿泊者は2、3泊程度の複数泊が主となっており(6割以上)、周遊など一定の滞在需要があることが特徴です。</p> <p>今後は、本市の特徴を踏まえたプロモーションを展開し、通過型観光から滞在型観光への転換が求められます。</p>	<p>3rd. 新しい時代の滞在型観光の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安曇野を核とした広域での観光資源の活用に取り組みます。 ・ 個人化、分散化など、アフターコロナにおける新たな旅のスタイルに対応した、体験・自転車周遊などによる滞在型ツーリズムを振興します。 ・ 北アルプスや低山、河川など市内の豊かな自然や国営公園などを活かしたネイチャー・ツーリズムを展開します。 ・ アウトドア・スポーツの聖地化を目指した取組と連携し、世界的な観光ニーズに対応できる安曇野の自然・アクティビティ・異文化体験を含んだアドベンチャートラベルを推進します。
<p>○ 恵まれた文化・芸術環境</p> <p>安曇野市・松川村・池田町・大町市・白馬村には、多くの美術館が林立しており、「安曇野アートライン」の活動を通して、広域で安曇野の美術館の魅力を発信してきました。</p> <p>市内の美術館・博物館の連携事業の実施のほか、コロナ禍により減少した観光客が、施設を周遊するきっかけとするため、大北地域の文化施設などとも協力し「あづみのミュージアムカード」の配布を行っています。</p>	<p>5th. 観光×文化による相乗効果を創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安曇野アートラインの美術館と協力し、「ナイトミュージアム」や「安曇野アートライン展」など、安曇野の美術館を巡る取り組みを行います。 ・ 市内の美術館・博物館が連携して、周遊促進を図る「ギャラリートークリレー」を実施します。 ・ 市内のアーティスト・芸術作家との連携や安曇野の美術館・博物館を活かしたアート・ツーリズムを展開します。 ・ 東京藝術大学によるアーティスト・イン・レジデンスの実施など、安曇野から新しいアートを発信する取り組みを進めます。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
日帰り客数（百人）	23、098（R2）	40、600（R8）	
宿泊延数（百人）	5、976（R2）	11、400（R8）	
【戦略】外国人延宿泊者数（人）	1、050（R2）	20、000（R8）	総合戦略K P I
【戦略】50歳未満の再来訪率（%）	73（R3）	73より増加	総合戦略K P I
美術館・博物館などが連携して行う周遊事業の件数（件）	3（R3）	5	ミュージアムカード。ギャラリートークリレー、オンライントークなど

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

選ばれ続けるまち、安曇野	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安曇野ハーフマラソンをはじめとした各種イベントの開催と併せ、市内の周遊を促すイベントを展開します。 ・ 都市部企業の研修旅行やシンポジウムの企画・誘致や、リゾートテレワークの利用促進を進めます。
AZUMINO ブランドの世界発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然豊かで安曇野市独自の観光資源を活用したネイチャー・ツーリズム、アドベンチャートラベルを展開します。
文化・芸術中核都市の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安曇野市の美術館・博物館を活かしたアート・ツーリズムを展開します。 ・ 安曇野を舞台にしたドラマ・映画・アニメを誘致・支援するフィルムコミッション機能を充実させます。 ・ eスポーツなど新規イベントの誘致・開催を目指します。 ・ 安曇野アートライン推進協議会への協力 ・ アーティスト・イン・レジデンスの実施による現代アーティストの作品展示の開催
アウトドア・スポーツの聖地	<ul style="list-style-type: none"> ・ アウトドア産業と連携を図りながら安曇野のアウトドアの聖地化を進めます。 ・ サイクリング周遊・滞在型ツーリズムなど新たな滞在型ツーリズムの振興を図ります。

2-8 アウトドア・スポーツを核としたまちづくり

観光事業や宿泊施設とも連携しながら安曇野市が有するアウトドア・スポーツ環境のPRを通じて関係人口を創出するとともに、市内アウトドア産業の活性化を図ります。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ スポーツイベントによる一定の集客効果</p> <p>毎年6月に開催している信州安曇野ハーフマラソンは、県内外から約 6,000 人が参加する集客力の高いイベントとなっています。</p> <p>しかし、県外からの参加者のうち、市内宿泊者は約 20%に留まっており、より多くの方に安曇野に滞在してもらえるよう、宿泊施設などと連携する必要があります。</p>	<p>1st. 宿泊施設などと連携したイベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハーフマラソンの開催により、参加者、市民、来訪者などの交流を深めるとともに、市の美しい景色や環境を全国にPRします。 ・ MTB やカヌーなどの自然体験型スポーツにかかわるイベントを開催し、市の魅力を全国にPRします。 ・ 市内の宿泊施設などと連携を図り、滞在型観光の推進を図ります。
<p>○ 自然体験型スポーツ施設の活用</p> <p>市内の自然体験型スポーツ施設は、前川のカヌーラームコース、犀川のラフティング、長峰山のスカイスportsのほか、トレッキングコースや登山道があります。</p> <p>自然体験型スポーツを多くの人々に知ってもらうためにも、効果的なPRが必要となります。</p>	<p>2nd. 自然体験型スポーツ施設のPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内に事業所を有する事業者や地域団体と連携し、安曇野市の特徴を活かした自然体験型スポーツを全国にPRすることで、多くの来訪者を呼び込みます。 ・ 関係団体と連携して大会やイベントなどを開催するとともに、市内の宿泊施設などとも連携し、自然体験型スポーツの推進を図ります。
<p>自転車活用に適した自然環境</p> <p>令和2年度から令和4年度にかけて、安曇野市の魅力を活かした3つのサイクリングコースを整備しました。</p> <p>さらに、令和4年度には堀金地域にマウンテンバイクコースをオープンしています。</p> <p>また、長野県が計画しているジャパンアルプスサイクリングルートには安曇野市の一部が指定されています。</p>	<p>3rd. 自転車を活用したまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車の活用を推進し、健康づくりの推進や青少年の健全育成、観光による地域の活性化、環境負荷の低減などを図ります。 ・ イベントや教室を開催し、サイクリングコースやマウンテンバイクコースの利用を促進します。 ・ 県や観光部局と連携してサイクルブランドの構築を図ります。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
ハーフマラソンの参加者数（人）	5,700 (R3)	6,000	
県外からのハーフマラソン参加者の宿泊者数（人）	2,700 (R3)	3,000	
自然体験型スポーツのイベントなどへの参加者数（人）	30 (R3)	120	
自転車に乗る頻度（％）	23.7 (R3)	25.0	市民意識調査

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

AZUMINO ブランドの世界発信	・ 安曇野が有するアウトドア・スポーツ環境を国内外に発信することで、アウトドア・スポーツを安曇野の新たな価値として位置づけます。
アウトドア・スポーツの聖地	・ 登山やトレッキング、キャンプ、グランピング、サイクリングコース、マウンテンバイクコース、カヌースラロームコースなどを生かすことで、関係人口の創出やアウトドア関連産業の振興を図り、アウトドアを切り口としたまちづくりを推進します。

2-9 多様な働き方への支援

企業と就労希望者のマッチングを進めるとともに、コワーキングスペースの整備やリゾートテレワークの推進といった新たな取組やチャレンジを支援します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 企業と人材のマッチングが求められる</p> <p>市内企業を対象に行ったアンケート結果では、市内企業の約6割が、人材の確保に課題を感じていると回答しています。</p> <p>しごとは、住まいを考えるうえで最も重要な要素であり、若年層の U ターン就職や移住・定住の決め手となるため、企業と就労希望者のマッチング支援をいかに行うかが重要になります。</p>	<p>1st. 就労に関する相談やマッチングを推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長野県と連携した支援により、移住希望者と市内企業の就労マッチングを推進します。 ・ 若年層の U ターン就職を促すため、市内企業や関係機関と連携した合同就職説明会を開催します。また、市内事業者に対してインターンシップに要する費用を補助します。
<p>○ 新たな働き方の広がり</p> <p>コロナ禍への対応としてテレワークが浸透したことに伴い、時間や場所にとらわれない新たな働き方が広まっています。</p> <p>テレワークは、地方での創業や就業、ワーケーションのといった新たな働き方の推進やワークライフバランスを見直す契機にもなります。</p>	<p>2nd. テレワークの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コワーキングスペースの活用支援や先進的に取り組む企業と連携することにより、テレワークなど新たな働き方を推進します。 ・ 市内宿泊施設と連携したリゾートテレワークを実施し、新たな企業の進出や多様な働き方につなげます。
<p>○ 職場環境や福利厚生の充実が求められる</p> <p>働き方や雇用環境が多様化する中で、勤労者が生活にゆとりや豊かさを実感できるよう、職場環境の整備や福利厚生事業の充実を図る必要があります。</p>	<p>3rd. 労働者への生活支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 啓発活動などを通じて、企業の働き方改革を支援します。 ・ 労働者福祉の向上を図るため、住宅建設資金や生活資金の融資に加え、勤労者互助会や労働福祉団体への支援を充実させます。
<p>起業・副(複)業を目指す人の増加</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、移住者による創業が増加しています。新たに地域の活力を創出するためにも、創業支援の充実を図る必要があります。</p> <p>一方、事業者の高齢化や後継者の不在、店舗の老朽化といった理由から、廃業や技術の逸失などに至るケースが増えており、起業支援と合わせて、いかに事業承継を支援していくかが重要です。</p>	<p>4th. 創業・事業承継への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「創業実現セミナー」を開催し、創業を目指す人を支援します。 ・ 産業支援コーディネーターを起用し、創業後の支援を行います。 ・ 移住者が創業・起業しやすい環境を整備するための補助制度を構築します。 ・ 事業承継への支援として、市商工会や関係団体と連携した相談体制を強化するとともに、

	マッチング支援を行います。
--	---------------



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
空き家を活用したコワーキングスペースの整備と運営（件）	0 (R3)	5	累計値
【戦略】新規就労移住マッチング（件）	0 (R3)	30	総合戦略K P I
【戦略】テレワークセンター登録者数（人）	89 (R3)	120	総合戦略K P I
【戦略】新規起業家数（人）	4 (R3)	累計 20	総合戦略K P I

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する共生のまち	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結婚や子育てを機に離職した女性の再就職を関係機関とともに支援します。 ・ 障がい者や高齢者、外国人の就労を支援する関係機関・事業者と連携し、就労マッチングを推進します。
選ばれ続けるまち、安曇野	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業と就業希望者のマッチングを推進し、若年層の地元回帰や移住者の増加を目指します。 ・ テレワークやリゾートテレワークといった新たな働き方を推進し、新たな働き方を支援します。

3-1 防災・減災対策の推進

防災・減災対策の充実を図り、災害などの被害を最小限に抑え、誰もが安全に安心して暮らすことができるまちをつくります。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 災害に強いまちづくりの推進</p> <p>台風や異常気象による集中豪雨や、糸魚川ー静岡構造線断層帯などを震源とする地震などの自然災害に備え、地域防災力の向上が求められています。</p> <p>このためには、一人ひとりが防災意識を高め、「自助・共助・公助」による防災体制を充実させ、災害に強いまちづくりを進める必要があります。</p>	<p>1st. 地域防災力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自主防災組織へ出前講座や災害対策に関する情報を積極的に提供し、自助・共助の意識の醸成を図ります。 ・ 市民の防災意識を高めるため、実践的な防災訓練の実施と防災講演会を開催します。 ・ 職員の災害対応力を強化するため、複数の状況を想定した訓練を定期的の実施します。 ・ 災害発生に備え、関係機関との協定締結を進め、連携を強化します。
<p>○ 防災用品などの備蓄推進</p> <p>防災用品の備蓄では、災害発生後 72 時間分の食料、飲料水、日用品などの物資の確保が重要となります。</p> <p>ただ、市が実施する備蓄品の整備には限界があることから、個人による備蓄も呼び掛けていく必要があります</p>	<p>2nd. 備蓄品の計画的な購入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所の開設などに使用する資機材、食料品などの備蓄を計画的に進めます。 ・ 市民や自主防災組織に対し、各家庭で実施できるローリングストック(食料品などを使い切った分だけ補充する)への取組などを呼びかけます。
<p>○ 災害の激甚化や異常気象の常態化</p> <p>近年、全国各地で災害をもたらす豪雨は、局地化、激甚化し、異常気象が常態化しており、それに伴い河川氾濫や土砂災害が発生しています。</p> <p>長野県内では2万箇所を超える土砂災害危険箇所があり、堰堤などのハード対策の他、ソフト対策も含めた対応が必要です。</p>	<p>3rd. ハード・ソフト両面からの対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土砂災害危険箇所への堰堤や崩壊土砂防止柵などの設置を県に要望していきます。 ・ 住民一人ひとりが地域ごとの特性に応じた自主避難計画の作成を県と共に支援します。
<p>○ 住宅の耐震診断・改修の重要性</p> <p>平成 7 年に発生した兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)では、直接的被害で亡くなった方の約9割が建築物や家具などの倒壊による圧迫死でした。このことから、住宅の耐震化は、震災発生時において人命保持に直結した課題となっています。</p>	<p>4th. 積極的な情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 耐震化の重要性や補助制度の情報を市民に提供します。 ・ 全国的な工事費の状況や目安について国が提示している資料を、市HPを通じて入手できるようにします。

また、耐震診断を実施した方が耐震改修の実施まで踏み込めない現状があります。これは、工事費が多額になることや、高齢化に伴う若年層の不在も関係していると考えられます。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
避難所として活用する民間施設（施設数）	6 (R4)	11	
土砂災害危険箇所存在区における避難体制づくり取組率（%）	30.3 (R3)	45.5	
耐震診断戸数（戸）	1、068 (R3)	1、168 (R8)	戸建住宅
耐震改修戸数（戸）	187 (R3)	237 (R8)	戸建住宅

関連するデータ



誰もが活躍する
共生のまち

・ 年齢、性別、障がいの有無、国籍など問わず誰もが安心して避難ができるように民間施設の活用をはじめとした避難所の拡充を図ります。

3-2 地域消防力の強化

激甚化する災害に迅速かつ的確に対応する為に、地域防災の中核である消防団の充実
に努めます。また、消防施設の整備や消防機材の配備を進めます。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 地域消防力の低下が懸念</p> <p>消防団は地域防災の核であり、災害が激甚化する中、その重要性はますます大きくなっています。しかし、社会構造や住民意識の変化、少子化などの影響から団員数は減少傾向が続いており、消防力の低下が懸念されています。</p> <p>また、地域消防力の強化にあたり、消防団員の確保に加え、防火水槽や消火栓などの消防設備の適切な設置や管理、常備消防との連携なども重要です。</p>	<p>1st. 消防団員の確保と設備の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 消防団員の処遇の改善を図り、住民や企業に消防団活動への理解を促進することで、消防団員の確保に努めます。 消防団詰所の統廃合を進め、効率的な出動体制を整備します。また、消防車両の更新や資器材などの適切な配備を進めます。 防火水槽や消火栓の適切な設置を進め、消防水利を確保します。 常備消防である松本広域消防局との連携を深め、消防体制の充実を図ります。
<p>○ 自主防災組織が市内で活動</p> <p>市内全区域で自主防災組織が結成されており、防災訓練などの防災活動が行われています。</p> <p>今後も、防災知識や防災に対する意識をさらに高めてもらうため、情報の提供や啓発活動を進めていく必要があります。</p>	<p>2nd. 自主防災組織の防災力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 自主防災組織の防災力強化のため、防災マップの普及啓発や避難所の運営方法などについて、出前講座を開催します。 自主防災組織が地域防災計画の策定や防災活動を実施できるよう支援を行います。
<p>○ 配慮を要する方に被害が集中する傾向</p> <p>高齢者や障がい者など災害時に支援を必要とする方に被害が集中する事例があるため、平常時からの地域での顔の見える関係づくりや、避難支援体制づくりが必要とされています。</p>	<p>3rd. 避難行動要支援者名簿の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者や障がい者などの配慮を要する方の迅速な避難につなげるため、対象者の名簿を整備し、関係機関と共有を図ります。 宿泊施設と連携し、配慮を要する方を積極的に避難場所の確保に努めます。
<p>○ 実効性のある避難支援体制づくりが課題</p> <p>配慮を要する方の情報提供(避難行動要支援者名簿の提供)だけでは、実効性のある避難支援体制整備としては不十分であり、地域の実情に合わせた避難支援体制の構築が必要とされています。</p>	<p>4th. 地域での見守り体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害時の避難支援体制の構築を図るため、避難行動要支援者名簿の情報を活用し、市社会福祉協議会とともに、災害時住民支え合いマップの作成を支援します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
火災発生件数	46 (R3)	35	
地域防災計画の策定率（%）	96.7 (R3)	100	活動組織数：90 組織（R4 時点）
【戦略】地区防災訓練の実施率（%）	38 (R3)	70	総合戦略 K P I
避難行動要支援者名簿提供同意率（%）	65 (R3)	70	

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する
共生のまち

- ・ 避難行動要支援者名簿を地域へ提供することにより、高齢者や障がい者などの要配慮者の的確な避難支援につなげます。

3-3 治山・治水事業の推進

自然災害などから、人命や財産を守るため、治山・治水対策に取り組み、安全で安心して暮らせるまちづくりを目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<ul style="list-style-type: none">・ 局地的な豪雨による災害の多発化 近年は、局地的豪雨が多数発生し、今まで以上に災害の危険性が高くなっています。 被害を最小限に抑えるためにも、危険個所の事前の把握や治山事業による対策の強化が求められます。 また、森林の荒廃は、水源涵養や土砂流出防備といった機能の低下を招くため、森林の持つ防災機能を十分に発揮させるため、計画的な森林の整備が重要です。	<p>1st. 治山事業の対策を強化</p> <ul style="list-style-type: none">・ 森林における危険個所の把握をし、必要な個所に対し速やかに保安林指定を進めます。・ 治山関連の危険個所について、県と連携し、治山事業による対策を進めます。・ 未整備森林について、市や林業事業者による森林整備を実施し、森林が持つ防災機能の維持を図ります。
<ul style="list-style-type: none">・ 大規模災害の発生リスクが増加 近年、県内では、令和元年東日本台風や令和2年7月豪雨、令和3年8月豪雨といった水害・土砂災害が発生しています。 今後も、気候変動などの影響による大規模災害のリスクが見込まれており、対策は急務です。 また、市で管理している河川については、未改修の箇所や降雨量によっては氾濫する箇所が存在しており、ゲリラ豪雨や台風による大雨などにより、実際に被害が発生している箇所があります。	<p>2nd. 適切な工事と河川整備の促進</p> <ul style="list-style-type: none">・ 地元からの要望や降雨時の被害状況から、現地を把握し、災害対策工事を実施します。・ 測量設計業務を実施し、災害対策工事を計画的に推進します。・ 国、県が実施する河川整備を促進します。・ 県が策定した「長野県流域治水推進計画」に基づき、流域治水に取り組みます。・ 氾濫を防ぐため、河川内における土砂の撤去や立木の伐採などを実施します。・ 水防活動に必要な資材の確保に努めます。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
保安林指定面積（ha）	4、758（R3）	4、780（R8）	

関連するデータ



3-4 防犯・交通安全の推進

犯罪や事故のない安全・安心なまちづくりの実現を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 体感治安の向上が必要</p> <p>市内の刑法犯認知件数は年々減少傾向にありますが、安全・安心なまちづくり実現のために、地域の治安に不安を感じさせないための取組みを進めていく必要があります。</p>	<p>1st. ハード・ソフト両面からの犯罪抑止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間の生活道路での犯罪の抑止・通行の安全のため、防犯灯の設置を推進します。 ・ 警察や防犯協会連合会、ボランティア、消費生活センターなどと連携し、犯罪被害防止に向けた広報・啓発活動を実施します。
<p>○ 高齢者や子どもが関わる事故が増加</p> <p>市内では、高齢者が関与する交通事故の割合が増加傾向にあります。</p> <p>一方で、全国では通学中の子どもが巻き込まれる交通事故が続発しており、市内でも通学路の交通安全に対する市民の関心が高まっています。</p> <p>これらの状況を踏まえ、特に高齢者や子どもの交通事故対策を講じるべきと考えられます。</p> <p>また、移動手段として近年注目が高まる自転車についても、安全対策が必要です。</p>	<p>2nd. 高齢者や子どもに対する交通事故対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出前講座、交通安全教室などを開催し、高齢者の交通事故防止を図ります。 ・ 運転免許証自主返納支援制度に関する広報・啓発を行います。 ・ 子ども向けの交通安全教室を通じて、「自分の身は自分で守る」意識の浸透を図ります。 ・ 自転車に乗車する際の正しい交通ルールに関する教育・啓発に取り組めます。
<p>○ 通学路の安全確保が社会的な問題に</p> <p>全国的に児童生徒が巻き込まれる度重なる事故の発生により通学路の安全確保は大きな社会的な課題となっています。</p> <p>毎年、各区から要望される道路などの改善要望には、歩道設置をはじめ、通学路の安全対策に関する要望も多く寄せられています。</p>	<p>3rd. 通学路安全点検とソフト対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校や PTA、地域、公安、道路管理者、関係団体と連携し、通学路の点検を実施します。 ・ 通学路合同点検により危険と指摘された箇所は、対策を早期に実施します。 ・ 歩道整備など時間がかかる場合は、指定通学路の変更や登下校の見守りなどソフト対策も合わせて推進します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
刑法犯認知件数（件）	187（R3）	143	（※年間5%減少）暦年
人身交通事故発生件数（件）	302（R3）	256	暦年（現状値から20%減少）
通学路合同点検箇所の実施率	63%（R4）	68%	通学路合同点検箇所一覧（H27年度以降）

関連するデータ



3-5 消費者保護の推進

消費者問題に関する啓発を通じて、巧妙・複雑化する悪質商法被害の防止や回復を図り、市民が安全に暮らせる消費生活社会の実現を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 悪質商法などの手口の巧妙化が進む</p> <p>近年、悪質商法や特殊詐欺の手口が巧妙化・複雑化しており、高齢者を中心とする被害が増加しています。</p> <p>消費者がトラブルに巻き込まれることを防ぐためにも、最新の手口やトラブルの事例、トラブルに遭った際の対処方法といった周知が重要になります。</p> <p>また、成年年齢の引下げにより、契約可能な年齢が拡大されたことから、若年層を対象とした消費者トラブルの防止が求められています。</p>	<p>1st. 消費者教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none">・ 詐欺被害を未然に防止するため、振り込め詐欺などの特殊詐欺対策として、留守番電話の対策機器の設置などに関する補助制度の周知を図ります。・ 悪質商法などに対する高齢者の理解の向上を図るため、消費生活相談員による出前講座を開催します。・ 若年層を対象に、消費生活センターに関する周知・啓発を行い、トラブル防止を図ります。
<p>○ 被害防止・被害回復への対応</p> <p>相談者の心情に配慮した相談対応により、被害の未然防止や被害回復を図ることが求められています。</p>	<p>2nd. 相談体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none">・ 多様化・複雑化する相談に対応するため、消費生活相談員職員を定期的に研修・勉強会へ派遣し、対応力の向上を図ります。・ 県や警察、金融機関、事業者、他市町村と連携し、広域化する悪質商法への対応を図ります。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
消費生活講座参加数（人）	4（R3）	500	
消費者契約に対する苦情解決割合（%）	97.4（R3）	97.4	R3 消費者トラブル関係相談 546 件うち、解決（被害回復・未然防止・助言など）件数 532 件 ÷ 解決率 97.4%

関連するデータ



4-1 自然環境の保全

自然とふれあい、自然環境に対する意識を高めるとともに、生物多様性の保護や水環境の保全を進め、持続的な魅力のある地域を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 生態系の急激な変化が進む</p> <p>地球温暖化や特定外来生物の増加などが原因で、生態系が急激に変わりつつあります。</p> <p>このため、地球温暖化対策に関する啓発活動や特定外来生物の駆除活動が必要であるとともに、生物多様性の重要性を広く知っていただくことが重要です。</p>	<p>1st. 自然環境保全活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none">・ 自然観察会を開催し、市民一人ひとりが環境について学び、考える機会を創出します。・ 生物多様性の重要性をより認知していただくため、市版レッドデータブックを改訂します。・ 市民、事業者、行政が一体となり、特定外来生物の駆除活動を実施します。・ 生物多様性アドバイザー制度により、多様性の維持に向けた取組みを推進します。
<p>○ 水質汚染防止法に基づく水質基準の遵守</p> <p>安曇野市は、水や空気、自然環境といった自然環境が豊かな地域です。</p> <p>この貴重な環境を次世代に継承するとともに、人と自然の共生や、持続可能な水環境の形成を図り、魅力あるまちの創出を目指すことが大切です。</p> <p>一人ひとりが自然の豊かさを再認識し、水環境保全の維持・保全に努め、意識の高揚に取り組むことが求められています。</p>	<p>2nd. 水環境保全の取組を推進</p> <ul style="list-style-type: none">・ 市民や団体、企業など多様な主体が水環境の保全を通じて、安曇野の水の魅力を発信する「あづみの水結」制度を推進します。・ 水環境に関する啓発に努め、安曇野の水に対する意識の向上を図ります。・ 地下水の適正利用を推進し、地下水の保全と涵養を図ります。・ 地下水涵養などの取り組みを継続的なものとするため、支援体制の構築に向けた研究を進めます。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
特定外来生物駆除活動の参加者数（人）	4,537 (R3)	4,850	
人為的な地下水涵養量（万 m ³ ）	180 (R3)	300	安曇野市水環境基本計画
地下水の硝酸性窒素基準値超過地点（か所）	0 (R3)	0	（水質汚濁の環境基準） 硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素 ≤ 10mg/L

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

選ばれ続けるまち、安曇野	・ 自然環境の保全を推進し、市の魅力である自然と暮らしが調和した住環境を 市民と一緒に築き 、安曇野への移住・定住意向を高めます。
AZUMINO ブランドの世界発信	・ 多様な主体が水環境の保全や情報発信を行う「あづみの水結」制度により、「名水百選」「水の郷」に認定された清らかな水が織りなす安曇野の原風景の魅力を発信します。

4-2 循環型社会の実現

3R（リデュース、リユース、リサイクル）を推進し、ごみの減量や食品ロスの削減を図り、循環型社会の実現を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 環境に配慮したライフスタイルが求められる</p> <p>マイバッグ、マイボトルの持参(リデュース)や、詰替品の購入(リユース)、資源物などの分別(リサイクル)といった3Rの取り組みは、多くの市民が実施しています。</p> <p>今後は、これらの取り組みを一層推進し、環境に配慮したライフスタイルが当たり前になるような市民意識の醸成が必要です。</p>	<p>1st. 3Rやエシカル消費の意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生を対象にした環境学習会を開催し、ごみを減らすことの大切さを学ぶ機会を創出します。 人・社会・地域・環境に配慮した消費行動であるエシカル消費の徹底を図るため、地産地消の大切さや環境に配慮した商品の選択などに関する啓発を実施します。
<p>○ 一般廃棄物の資源化と減量が課題</p> <p>令和元年度の1人1日当たりのごみ排出量は、家庭系ごみは県内19市中最も少なく、事業系ごみは2番目に多くなっています。</p> <p>家庭でのごみ・資源物の分別は概ね定着しています。今後のごみの減量を進めるには、事業者による一般廃棄物の資源化・減量が課題です。</p>	<p>2nd. 一般廃棄物の適正な排出と資源化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> プラスチック資源循環促進法に基づき、プラスチック製品の分別回収を進めます。 事業者に対し「事業系ごみ減量化・適正処理の手引き」を活用し、ごみの適正処理の周知を図ります。
<p>○ 地域の特性に応じた資源の補完</p> <p>平成30年に閣議決定された国の第五次環境基本計画では、環境・経済・社会の課題を踏まえ、複数の課題の統合的な解決を図る「地域循環共生圏」が提唱されており、循環型社会の構築の実現につながるものです。</p>	<p>3rd. 地域循環共生圏</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域循環共生圏」の構築を目指し、市が有する自然景観や産業などの地域資源を活用し、それらの特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力を引き出すことを目指します。
<p>○ 食品ロスの発生</p> <p>家庭での食品ロスの発生原因として、「食べ忘れ」「買いすぎ」「在庫を確認せず不必要なものを購入」などが多くを占めています。</p> <p>また、外食や宴会などでの発生原因は「注文のし過ぎ」「量が多く食べきれなかった」などの理由によるため、食事の適正量を知ったうえで注文することや、宴会時の食べきりの取り組みが重要になります。</p>	<p>4th. 食品ロスの発生抑制</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの頃から「もったいない」という感覚を醸成し、食品ロスを減らすための啓発を実施します。 食品ロスが発生する原因や発生させない意識の普及を図るため、啓発を行います。 商工会と連携し、「残さず食べよう！30・10運動」の呼びかけを事業者へ行うなど、食品ロス削減を推進します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
リサイクルセンターの利用者数（人）	53,102 (R3)	55,602	
1人1日当たりの生活系ごみ排出量（グラム）	476 (R2)	465 (R7)	環境省「一般廃棄物処理実態調査」
1人1日当たりの事業系ごみ排出量（グラム）	325 (R2)	317 (R7)	環境省「一般廃棄物処理実態調査」
家庭で「食品ロスはない」と回答した市民の割合（％）	18.4 (R3)	25.8	市民意識調査

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

選ばれ続けるまち、安曇野

・ 3Rやエンカル消費の推進による循環型社会の実現により、安曇野の魅力である自然環境の保全を図り、魅力あるまちづくりに貢献します。

4-3 脱炭素社会の実現

市民・事業者・行政が一体となり、地球温暖化を防止するため、2050年ゼロカーボン達成を目指し、あらゆる必要な取組みを行っていきます。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 地球温暖化を招く二酸化炭素</p> <p>私たちが生活するうえで、電気や自動車などは欠かせないものになっています。しかし、電気を作る際や自動車を運転する際には、化石燃料が使用され、二酸化炭素が排出されています。</p> <p>これまで、地球温暖化対策の必要性は認識されていますが、省エネを実践した生活をさらに推進する必要があります。</p>	<p>1st. 省エネを重視した生活の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民・事業者・行政が一体となり、自動車の使用を削減する取組みを実施します。また、カーシェアリングの推進やEVやFCVなどの乗換えを推進します。 省エネを意識した行動を促進するため、市民や事業者、行政が一体となった取組を支援します。
<p>○ 再生可能エネルギーの活用が課題</p> <p>ゼロカーボンの達成には、石油や石炭などの化石燃料だけではなく、再生可能エネルギーで作られた電気を使うことが求められます。</p> <p>主流な再生可能エネルギーである太陽光発電は、設備の設置などに伴う費用などが負担となり、設置を躊躇してしまうケースもあります。</p> <p>また、太陽光発電以外の小水力やバイオマスなどについても、そのポテンシャルを調査し、利用を促進することが求められています。</p>	<p>2nd. 再生可能エネルギーの普及拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 住宅用太陽光発電システムに対する補助事業に加え、省エネに関する補助事業を新たに検討します。 広報やホームページ、出前講座などで再生可能エネルギーの有用性や必要性について周知します。 太陽光以外の小水力、バイオマス、地中熱などの実現可能性や適地を調査します。
<p>○ スケールメリットを生かした取組みが必要</p> <p>地球温暖化対策は全世界共通の課題であり、自治体単独で出来ることには、規模や効率性の面で限界があります。</p> <p>このため、広域自治体での連携が重要となり、各地域の資源、技術、資金を活用しつつ、スケールメリットを生かした取組みを行う必要があります。</p>	<p>3rd. 広域連携した取組みの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化問題の解決に向けて、国、県、周辺自治体などとの連携を強化していきます。 国の補助事業について、広域自治体で連携した実施を検討します。 広域自治体での電気自動車の充電スタンドの設置を検討します。 地域新電力の導入・活用について、周辺自治体と協議、検討を行います。
<p>○ 環境と経済活動の両立が求められる</p> <p>気候変動が地球規模で進行する中、企業の脱炭素に向けた取組は、重要性を増しています。</p>	<p>4th. 脱炭素へ向けた企業の取組みを推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内企業に対して、省エネ向上が見込まれる生産設備の導入を支援します。

<p>なお、脱炭素への取組に着手している企業は、比較的規模が大きい企業であることが多い一方で、中小企業では、必要性の認識はあるものの、具体的な取組には至らないことが多い現状です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 脱炭素化に向けた各企業の技術革新、事業の創出などへの支援を検討します。
---	---



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
温室効果ガス総排出量（市所有施設）（kg-CO2）	18,267,139 (R2)	16,508,835 (R8)	
地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を策定中であり、その中から選定予定	—	—	

関連するデータ



4-4 自然と発展が織りなすまちづくり

安曇野の地域特性を活かし、暮らしやすさと産業発展のバランスが取れた持続可能なまちづくりを進めます。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 暮らしやすさと産業発展</p> <p>持続可能な都市を形成していくためには、社会構造の変化に対応した土地利用が必要です。</p> <p>そのためには、農地や自然環境の保全、景観に配慮しつつ、暮らしやすさと産業発展のバランスが取れたまちづくりが求められています。</p> <p>また、松本系魚川連絡道路(松系道路)穂高明科線が都市計画決定されるなど、当市を取り巻く環境は大きく変化しています。</p> <p>さらに、安曇野北 IC(仮称)周辺の土地利用をはじめ、当市の都市計画について情勢に応じた見直しを進める必要があります。</p>	<p>1st. 計画的なまちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安曇野市の魅力である田園や里山の良さを守りつつ、既存産業団地周辺などにおいて、計画的な産業振興を図ります。 ・ 生活利便性向上と安全・安心なまちづくりのために、東西線を含む幹線道路の整備を進めます。 ・ 安曇野北 IC(仮称)周辺の土地利用について、周辺住民の意向を踏まえた検討を進めます。
<p>○ 拠点地域への開発誘導が課題</p> <p>持続可能な都市づくりのためには、都市機能をコンパクトに集約していくことが求められます。</p> <p>一方、当市では、良好な景観などを享受できる田園地域などの郊外部への移住需要が依然として高く、コンパクトなまちづくりの推進が停滞している状況にあります。</p> <p>また、人口減少や高齢化社会が到来する中で、空き家や空き店舗が増加しています。</p>	<p>2nd. 集約重視のまちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 拠点区域に商業・医療・福祉施設などを誘導し、拠点区域内に必要なサービスが充足できるよう推進します。 ・ 拠点区域などに居住を誘導するとともに、空き家や既存の住宅地などを有効活用できるよう、土地利用制度の見直しに向けた検討を進めます。
<p>○ 時代の変化による新たな用途への対応</p> <p>社会構造の変化や新型コロナウイルス感染症の影響などにより、コワーキングスペースなどの新たな用途に対応する必要があります。</p> <p>また、急激な人口減少に伴い、空き家や空き店舗などが増加している状況から、適正な管理と利活用が課題となっています。</p>	<p>3rd. 土地利用制度の適正な運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土地利用制度の適正な運用を行い、暮らしやすさと産業発展のバランスがとれたまちづくりを進めます。 ・ 社会情勢や社会構造の変化に伴い、空き家や空き店舗の活用、新たな用途への対応などが必要になった場合は、土地利用制度の見直しを行います。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
【戦略】居住区域内の新築件数割合（％）	39（R3）	40	総合戦略KPI

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する 共生のまち	・ 山岳と田園が育むよさを大切にし、暮らしやすさをみんなで共有・継承できるまちを目指し、ユニバーサルデザインのまちづくりを進めます。
選ばれ続けるまち、安曇野	・ 今ある良好な環境を大切にしながら、暮らしやすさと産業発展のバランスを保つために、土地利用制度の適正な運用を図ります。

4-5 暮らしと調和する景観の保全

地域と調和した魅力ある景観の保全と育成に取り組み、安曇野らしい景観づくりの実現を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 次世代へ受け継ぐべき財産としての景観</p> <p>市民意識調査において、市に愛着を感じている理由として「自然環境と調和した快適な住環境が整備されている」と回答する市民が最も多くなっています。</p> <p>良好な景観は、美しい地域の形成と豊かな生活に不可欠な次の世代へ受け継ぐ財産であり、自然環境と生活環境の調和がとれた景観づくりが求められます。</p>	<p>1st. 調和がとれた景観づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 景観計画の基準を守った景観づくりを進めるため、開発事業者に対する説明や助言を行います。 屋外広告物条例で定める基準への適合や、既存不適格広告物の改善を進めるため、設置事業者に対する説明や助言などを行います。 建築物や屋外広告物のパトロールを行い、現状の把握と適正な指導を行います。
<p>○ 景観施策に対する認知度は低い</p> <p>令和2年に実施した景観に関するアンケート調査では、景観に関心がある人は9割近くと多い一方、景観に関する取り組みを知っている人は約3割であることがわかっています。</p>	<p>2nd. 景観施策の認知度向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 景観形成に対する意識を醸成するため、安曇野市の景観を守るための景観施策や取り組みについて、情報発信を行います。
<p>○ 緑化の重要性の高まり</p> <p>良質な住環境整備などの観点から、まち中の緑化の重要性が高まっています。緑を活かし、人々が集い賑わう魅力あるまちを目指して、公共施設や住宅地の更なる緑化の推進や緑のまちづくりを支える体制などの取り組みが求められます。</p>	<p>3rd. まちの緑化推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 緑化の推進及び意識の高揚を図るため、緑化に関する補助及び情報発信を行い、緑のまちづくりを支える体制を整備します。 まち中の良質な住環境や景観を良好にするため、グリーンインフラを活用した緑のまちづくりの取り組みを進めます。
<p>○ 住民組織における担い手不足</p> <p>景観づくり住民協定は現在25箇所締結されており、協定区域の景観の保全について活動を行っています。</p> <p>しかし、少子高齢化によって担い手が不足することで、組織員の固定化が課題となっており、活動の継続的な支援が必要とされています。</p>	<p>4th. 景観づくりの活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 景観づくり住民協定を締結した組織の継続を支援するため、団体間の情報共有と交流を促進し、組織の活性化や活動の拡充を図ります。 景観づくり住民協定を支援するため、景観条例及び景観づくり推進地区などの制度の活用について、情報発信を行います。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
景観保全に対する満足度（％）	59.1（R3）	70.0	市民意識調査 満足している/まあ満足して いる計
生垣設置補助の申請件数（件）	28（R3）	43	

関連するデータ

安曇野市景観計画

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する 共生のまち	・ 景観づくりに関して、景観住民協定や景観整備機構などのさまざまなパートナーシップを奨励・推進します。
選ばれ続けるまち、安曇野	・ 景観条例に基づく届出(通知)制度による誘導を通じて、良好な景観形成を図り、安曇野の価値を高めます。

4-6 道路整備の推進

道路や橋の整備と老朽化対策を行い、利便性や安全性が確保された道路環境を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 生活を支える道路</p> <p>道路は、通勤、通学などなど移動を伴う様々な場面で利用する重要な施設です。</p> <p>そのため、利便性や快適性、安全性に対するニーズが高く、毎年多くの改善要望が寄せられています。</p>	<p>1st. 事業実施路線の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民のニーズを踏まえ、幹線道路の整備を行います。 ・ 生活道路は、要望があった路線の重要度、緊急性などを踏まえ、順次改良を行います。 ・ 長野自動車道や国道19号、国道147号、松糸道路、東西幹線道路の整備をはじめ、未改良道路の整備などを国や県に要望します。
<p>○ 道路施設の老朽化</p> <p>道路や橋梁など既存施設の老朽化が進んでおり、対応が必要になっています。</p> <p>このため、将来的な財政負担の軽減や、道路交通の安全性の確保に取り組むことが必要です。</p>	<p>2nd. 施設の長寿命化と適正な維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道路の破損箇所などの情報を、アプリの活用などにより市民と共有し、迅速な改修につなげます。 ・ 道路や橋梁などの適正な維持管理に努め、安全で安心な道路環境の整備を進めます。 ・ 計画的に傷んだ舗装や橋梁の修繕を行い、長寿命化を図ります。
<p>○ 降雪時の交通対策</p> <p>冬期間は降雪による交通障害や、凍結によるスリップ事故が発生することから、特に冬期における道路環境の維持管理が重要となります。</p>	<p>3rd. 効率的な除融雪対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 積雪時の交通や歩行者の安全を確保するため、区やPTAなどと協力し、効率的な除融雪対策に取り組みます。 ・ 除雪、融雪路線を指定し、冬期間の交通確保に努めます。
<p>○ 松本系魚川連絡道路(松糸道路)の整備</p> <p>松糸道路は、広域的な道路ネットワークの形成のためだけでなく、市の商工業・観光の振興など、将来のまちづくりを考える上で重要な道路です。</p> <p>なお、安曇野市の新設区間である「安曇野道路」は、令和2年にAルートが最適ルート帯として公表され、令和4年度より新規事業化されています。</p>	<p>4th. 松本系魚川連絡道路の整備促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 松糸道路の安曇野市新設区間である「安曇野道路」の早期建設及び現道活用区間の早期改良に向けて、県と共に取り組みます。 ・ 新設区間と現道を活用する区間とを組み合わせた整備を計画します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
市道舗装率（％）	76.7（R3）	78.2	
歩道整備率（％）	70.5（R3）	72.6	

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する 共生のまち	・ 歩行者の利用頻度の多い道路などにおいては、幅の広い歩道の整備、歩道段差、傾斜、勾配の改善、視覚障がい者誘導ブロックの設置などにより、歩行空間のユニバーサルデザインを推進します。
アウトドア・スポーツ の聖地	・ 自転車走行空間を整備し、サイクリストが走行しやすいまちを整備します。

4-7 上下水道の安定経営

良質な水道水の安定供給と水洗化による快適な生活環境を維持するとともに、健全かつ効率的な事業運営を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 良質な水道水の安定供給</p> <p>上水道は、生活に欠くことのできない大切なライフラインであり、常に良質な水が供給されることが求められています。</p> <p>このため、施設の計画的な更新や、災害時の給水体制の確立に取り組む必要があります。</p>	<p>1st. 計画的な施設更新</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水質管理を徹底し、良質な水道水の供給に努めます。 ・ 計画的な施設の更新に合わせ、災害時の重要給水施設と拠点配水池を結ぶ主要管路の耐震化整備を行い、災害時の給水ルートの確保を進めます。
<p>○ 快適な生活環境を維持</p> <p>下水道は、衛生的で快適な生活を送る上で必要不可欠な施設です。本市の下水道施設は、短期間に集中的に整備してきたことから、老朽化による施設更新も同時期に集中します。</p> <p>また、人口の減少や節水型トイレの普及による汚水量の減少により、経営環境の悪化が懸念されています。</p> <p>このため、下水道への接続促進とともに、施設の長寿命化と下水道区域見直しによる効率的な汚水処理を図る必要があります。</p>	<p>2nd. 水洗化率向上と計画的な事業推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水洗化率の向上を目指し、下水道の接続を推進します。 ・ 計画的な点検調査により、施設の適正な管理と効率的な改築更新を進めます。 ・ 効率的な汚水処理と持続可能な事業経営に向けて、人口減少率が高く汚水量が減少している明科地域の処理区域を見直し、現在5つある処理施設について、段階的に統廃合を進めます。
<p>○ 健全かつ効率的な事業運営</p> <p>今後の人口減少などの環境の変化を見据え、水道事業、下水道事業ともに健全かつ効率的な事業運営に努め、安定したサービス提供を行う必要があります。</p>	<p>3rd. 中長期的視点に立った経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中長期的な投資、財政計画を策定し、健全で効率的な財政運営に努めます。



■ 指標・目標値

指標項目 (単位)	R4 現状値	R9 目標値	備考
主要管路耐震化率(%)	36.8 (R3)	71.8	
水洗化率(%)	87.0 (R3)	89.4	
水道事業会計 経常収支比率 (%)	124.79 (R2)	125.0 (R8)	
下水道事業会計 経常収支比率 (%)	117.21 (R2)	118.0 (R8)	

関連するデータ



4-8 持続可能な公共交通の形成

あらゆる移動ニーズに対応するとともに利用される移動サービスを提供することで、将来にわたって確保、維持される地域公共交通システムの実現を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 公共交通に対するニーズの高まり</p> <p>公共交通機関は、学生や高齢者など、車を運転できない人の生活を支える大切な移動手段です。しかし、マイカーの普及や人口減少などにより、公共交通の利用者は減少傾向にあります。</p> <p>一方で、免許を返納した高齢者の通院や買い物に対するニーズが高まっており、地域の特性に応じた公共交通の確保・維持が求められています。</p>	<p>1st. デマンド交通「あづみん」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市独自の移動手段であるデマンド交通「あづみん」について、最大の特徴であるドアツードアサービスを活かし、利用者の確保を図ります。 あづみんの乗車予約のオンライン対応に加え、運行時間の拡張や運行エリアの再編、発着時間の可視化により、利便性の向上を図ります。 新たなサービスを検討し、より多くの市民が利用しやすい環境を整備します。
<p>○ 移動サービス(モビリティ)の充実が課題</p> <p>市民に加え、市内に来訪された方の移動手段としての二次交通の確保が課題となっています。</p> <p>鉄道(JR大糸線・JR篠ノ井線)や周遊バス、タクシーなどの既存の公共交通機関、シェアサイクルの有効活用に加え、これらを補完する新たな移動サービスが期待されます。</p>	<p>2nd. 地域交通ネットワークの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄道やデマンド交通を軸とし、複数の公共交通機関と連動した地域交通ネットワークを形成します。 複数の移動サービスを、個々の移動ニーズに応じて予約・決済などを一括で行うことが出来るサービス(MaaS)の導入を検討します。 あづみんに加え、自動運転技術などを活用した輸送サービスの導入を検討します。
<p>○ 新たな時代への対応</p> <p>脱炭素社会の実現に向け、公共交通としての役割を担う車両などについても、環境負荷が小さいものへの転換が求められています。</p> <p>また、少子高齢化の進行により、地域における公共交通の担い手不足が顕在化しています。</p>	<p>3rd. 新技術の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 車両更新に合わせ、EV車両や新エネルギーを利用したモビリティへの移行を検討します。 あづみんへの自動運転技術の実装を視野に調査、研究を行います。 新技術に対する社会受容性の向上のため、積極的に情報発信を行います。
<p>○ 勤労者の通勤、移動</p> <p>駅やインターチェンジの駐車場、駐輪場を整備し、公共交通機関を利用して通勤、通学する方の利便性を図ることが必要です。</p>	<p>4th. パークアンドライドの拠点管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 駅やインターチェンジに整備した駐車場、駐輪場の適切な運用により、利用者の利便性を確保して円滑な企業活動に結びつけます。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
あづみん（デマンド交通）利用者数（人）	78,975 (R3)	87,000	
あづみん（定時定路線）利用者数（人）	10,444 (R3)	10,500	
公共交通網に対する満足度の割合（%）	18.3 (R3)	23.0	市民意識調査「満足している」「まあ満足している」の割合

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する 共生のまち	<ul style="list-style-type: none"> ・ デマンド交通の利便性の向上を図り、高齢者や障がい者など自動車が運転できない方の外出の機会を創出します。 ・ 外国人の方が利用しやすいよう、人権共生課と連携した周知を実施します。また、多国籍言語に対応可能な利用案内を充実させます。
選ばれ続けるまち、安曇野	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の移動手段をつなぎ、MaaS アプリで連携させることで、市内の移動に加え、市外への円滑な移動を推進します。
文化・芸術中核都市の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・ AI 活用型オンデマンドバスの導入など、来訪者が利用しやすい公共交通ネットワークを構築します。 ・ MaaS の導入により、複数の移動手段をつなぎ、市内施設の回遊性向上を図ります。
アウトドア・スポーツの聖地	<ul style="list-style-type: none"> ・ MaaS の導入により、拠点となる施設への移動を円滑にさせ、シェアサイクルの活用を推進します。

4-9 良質な住環境の整備

公園、霊園の整備や適正管理、合併処理浄化槽の設置促進、公害防止の取り組みを通じて、良質な住環境の整備・保全を図ります。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 公園利用者の安全確保</p> <p>市民のニーズに即した公園整備を進めるとともに、適切な管理と更新により、全世代が安全・安心して利用できる公園の整備が求められています。</p>	<p>1st. 公園施設の適切な維持管理と更新</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の長寿命化と安全性の向上を図るため、老朽化した公園施設や遊具などの修繕や更新を計画的に行います。
<p>○ 住環境の保全</p> <p>住環境にかかる苦情や相談の件数は減少傾向ですが、良好な状態を維持し、さらに改善していくためには、継続した取り組みが必要です。</p> <p>また、生活様式の変化や地域の繋がりの希薄化により、相談の種類や状況も多様化しています。</p>	<p>2nd. 公害防止の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続的な環境指標の調査により、現状と変化を把握し、公害の発生を未然に防止します。 法令に基づく事業者の調査・監視・指導や市民への啓発などを行います。 発生した公害に対しては、良質な住環境の回復のため、原因の特定・解消に取り組みます。
<p>○ 生活排水未処理の解消</p> <p>合併処理浄化槽の設置は進んできていますが、トイレの排水のみを処理し、台所や風呂場からの生活排水は未処理となる単独処理浄化槽やくみ取りトイレも相当数残されています。</p> <p>水質への負荷を抑えるため、生活排水未処理の解消に向けた取り組みが必要となっています。</p>	<p>3rd. 合併処理浄化槽の設置促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 良質な住環境の保全や水質汚濁防止のため、補助金の交付などを行い、下水道整備区域外での合併処理浄化槽の設置と適切な維持管理を促進します。
<p>○ 墓地にかかる社会情勢の</p> <p>墓地について、少子高齢化の進展など、社会情勢の変化に伴う需要の増加や、承継者のいない無縁墳墓の増加が懸念されます。</p> <p>また、墓地の保有や承継に関する市民の考え方が変化し、合葬墓などの多様な墓地形態への関心の高まりが考えられます。</p>	<p>4th. 市営霊園の適正管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズに配慮した霊園の整備を検討するとともに、無縁墳墓の把握と発生抑制対策を行い、適正な維持管理を行います。 返還聖地の有効活用(再販)を行います。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
きれいな水、澄んだ空気など、良好な生活環境が保たれている（ポイント）	3.17（R3）	3.17 以上	市民意識調査（満足度）
公園・緑地整備に対する満足度の割合（％）	49.2（R4）	57.0	「満足している」「まあ満足している」の割合

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

選ばれ続けるまち、安曇野	<ul style="list-style-type: none"> ・ 良質な住環境の整備、保全により、市民や移住者に選ばれるまち安曇野の下地づくりを行います。 ・ まち中の良質な住環境や景観をより良くするため、身近な緑を守り育てる取り組みを進めます。また、住宅地への緑化支援を継続して取り組みます。 ・ 老朽化した公園施設の修繕と更新を計画的に行い、長寿命化と安全性の向上が図られた公園整備を進めます。
---------------------	--

4-10 移住・定住の推進

住んでみたい、住んでよかったまちを目指し、当市の魅力を市内外に戦略的に情報発信を推進するとともに、移住相談体制を充実させ、移住・定住を推進します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 少子高齢化による人口減少が進む</p> <p>人口減少が進む中、市の機能を維持するためには、いかに人口を維持するかが重要です。</p> <p>今後の安曇野を担う人材を確保するためには、移住を検討している若年層や子育て世帯に対し、積極的に安曇野の魅力を発信するなど、シティブロモーションを展開する必要があります。</p>	<p>1st. 移住プロモーションの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市部でのセミナーやオンラインセミナーや市内での移住体験会を実施し、移住者の増加を図ります。 ・ 市内のゲストハウスやシェアハウス、宿泊施設などと連携し、安曇野での生活をリアルに体験していただく機会を創出します。 ・ I・J ターンを促進し、県外からの移住者が安曇野で暮らしやすいよう、市独自の補助制度を検討します。
<p>○ 若年層の市外流出が多い</p> <p>本市では、社会動態(転入者－転出者)が例年プラスになっているものの、年代別にみると、若年層の流出が多い状況です。</p> <p>市の持続的に発展していくためには、市外へ進学する若年層の地元回帰をいかに進めるかが課題です。</p>	<p>2nd. シビックプライドの醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内に住む若年層をターゲットに、安曇野の魅力の理解や愛着(シビックプライド)を醸成する内的なプロモーションを推進することで、地元への定着・回帰を促進します。
<p>○ 戦略的な情報発信が必要</p> <p>移住にあたっての不安を解消し、移住後も住み続けていただくためにも、情報提供や相談体制の充実は大切です。</p> <p>また、移住後の人的なつながりを不安視する方は少なくありません。このため、移住後の人的なつながりを支援していくかが重要です。</p>	<p>3rd. 相談体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンラインツールを活用し、移住検討者が相談しやすい体制づくりに努めます。 ・ 移住者や民間団体との連携により、きめ細かな相談を行える体制を整備します。 ・ 移住者同士の交流機会を提供することで、人的なつながりを創出し、市内への定住を支援します。
<p>○ 市が一体となった移住・定住支援が必須</p> <p>移住を考えるにあたり、しごとや住まい、子育て、教育、医療、福祉、防災、生活環境、地域との人間関係といったあらゆる要素を検討する必要があります。</p>	<p>4th. 庁内が一体となった移住・定住支援</p> <p>(就労)市内移住者と市内企業の就労マッチングを推進します。</p> <p>(就農)半農半Xなどの多様な就農スタイルを推進します。</p>

<p>移住にあたっての不安を解消し、移住後も住み続けていただくためにも、市が一体となり、移住・定住に向けたニーズに応えることが求められています。</p>	<p>(子育て)共働き世帯の子育て支援を充実させるとともに、あづみの支援保育の推進により、市の良好な子育て環境のPRを推進します。</p> <p>(住まい)空き家バンクの利用を促進し、空き家や農地付き空き家の利活用マッチングを図ります。</p> <p>(地域)地域の情報を集約・発信し、移住者が求める情報を積極的に発信します。</p>
--	---



■ 指標・目標値

指標項目 (単位)	R4 現状値	R9 目標値	備考
【戦略】移住支援による移住者数 (人)	42 (R3)	475	累計値 毎年度、5人ずつ均などに上昇 総合戦略基本目標2のKPI
首都圏での移住セミナー参加者数 (人)	52 (R3)	600	累計値 東京(4回)・名古屋(1回)・大阪会場(1回)各20人上限
社会増減数(年間)(人)	197 (R3)	300	総合戦略数値目標

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

選ばれ続けるまち、安曇野	<ul style="list-style-type: none"> ・ シティプロモーションを強化により、移住検討者への市の魅力を積極的に発信します。 ・ 進学などで市外に出ている若年層の地元回帰を促すため、市内高校生などに対するシティプロモーションを行います。
AZUMINO ブランドの世界発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移住推進PRにあたり、安曇野が有する観光や農産物、水といった魅力を活用します。
アウトドア・スポーツの聖地	<ul style="list-style-type: none"> ・ アウトドア・スポーツ環境を前端的に発信することで、安曇野市の魅力を伝えるきっかけとし、移住者の増加を図ります。

4-11 空き家対策の推進

空き家の発生を抑制するための啓発や空き家の適正な管理の推進を通じて、空き家を地域の資源として生かしながら、活力あるまちづくりを推進します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 管理不全の空き家が増加</p> <p>空き家は少子高齢化や核家族など人口減少により、年々増えています。また、適正に管理されていない空き家も増えており、環境や景観、保安面への悪影響や地域の魅力の低下が危惧されます。</p> <p>このため、空き家に関するメリットやリスクなどを周知が重要になります。</p>	<p>1st. 所有者に届く情報発信、啓発の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家の発生抑制や適正管理、利活用などの情報などを所有者に届けるため、専門家による相談会や講座、活用事例動画、セミナーなど情報発信を強化します。 ・ 管理不全の空き家や危険性のある空き家の解消を図るため、空家対策法に基づく助言、指導、勧告などの行政措置を進めます。
<p>○ 中古住宅は需要超過</p> <p>令和4年12月末時点では、市内には劣化が少なく利活用可能な空き家が、840戸ほどあることがわかっています。</p> <p>しかし、空き家バンクなどを通じて市場に流通する物件が少なく、需要に対し供給が不足している状況です。</p>	<p>2nd. 空き家バンクの利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家バンクの活性化を図るため、所有者や利活用希望者のニーズを反映し、移住促進や地域の活性化につながる交流、関係人口の拡大に寄与する補助金制度を充実します。
<p>○ 空き家活用ニーズの増加と多様化</p> <p>地方回帰や二拠点居住などの流れを受け、空き家の利活用を希望する方は増加しています。</p> <p>また、その活用方法は住まいに限らず、店舗などの創業やテレワーク、コワーキングスペース、福祉事業所など多様です。</p>	<p>3rd. 空き家利活用希望者とのマッチング支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利活用希望者とのマッチングを強化するため、ガイドによるまちあるき空き家見学会などの実施場所を市内全域に広げ、地域と連携しながら空き家を資源として生かせるまちづくりを進めます。 ・ 空き家の利活用において、専門家や民間団体と連携したネットワーク組織やコーディネーター育成により相談体制を整備します。
<p>・ 空き店舗解消への課題</p> <p>市内の空き店舗の数は増加しており、起業を考える人が空き店舗の活用を希望することも少なくありません。ただ、店舗が住宅を兼ねているなどの事情から、活用に至らないケースも多く、利活用に向けた取組を推進する必要があります。</p>	<p>4th. 空き店舗の利活用を補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内の空き店舗などをリノベーションする費用を補助し、新たな街の賑わいを取り戻す拠点を増やします。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
空家数（戸）	1,086（R3）	868	発生予防、適正管理、利活用促進を総合的対策することで、現状から2割減。
空家対策補助金申請件数（件）	71（R3）	221	累計値 毎年30件
空き店舗など改修件数（件）	0（R3）	5	累計値

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

選ばれ続けるまち、安曇野

- ・ 空き家の利活用を促進するため、相続などの条件整理を支援するとともに、ニーズに即した補助金制度を展開し、移住や創業による地域活力の強化を推進します。
- ・ 地域の魅力を再認識し伝えるため、歴史や文化、生活環境などの情報を発信しながら、空き家のマッチングを図るまちあるき空き家見学会で移住、定住を促進します。

5-1 学校教育の充実

郷土への愛着と誇りを持ち、未来を拓くたくましい安曇野の子どもを育み、活力に満ちた特色ある学校づくりを進めます。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 学力・体力の底上げのための工夫が必要</p> <p>学力の向上には、小中学校が連携した学習指導が効果的であるとされています。</p> <p>さらに、授業形態の工夫や探究的に学ぶ機会の充実を図ることで、さらなる学力の向上が期待されます。</p> <p>また、体力の向上には、運動する機会を自らつくり、実践する意欲・態度を育む必要があります。</p>	<p>1st. 主体的・探究的に学び合う教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市校長会と連携して全国学力・学習状況調査結果を分析し、学習指導の改善を図ります。 ・ 「安曇野の時間(仮称)」を導入し、地域の理解や郷土を思い愛するところを育みます。 ・ 体づくり運動に親しむ機会を充実させるため、教員を対象とした運動に係る研修機会を設け、授業などで活用できるようにします。
<p>○ 特別な配慮を要する子どもの増加</p> <p>発達における個々の特性に加えて、家庭環境や社会状況、文化的背景などの要因から、学び方や生活・行動様式が多様化し、特別な配慮や社会的援助を要する子どもの数が増加しています。</p> <p>また、不登校傾向にある児童生徒在籍率は、国・県同様、増加傾向にあり、ここ数年は小学校での増加が顕著です。</p>	<p>2nd. 子どものニーズに応じた支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの家庭状況やニーズに応じた支援を行うため、医療や福祉、司法などの関係機関と幅広く連携した支援を行います。 ・ 不登校やいじめ、対人関係に悩む子が気軽に相談できる支援体制を整備します。 ・ 発達上の悩みがある子や医療的ケアを必要とする子への支援体制の充実を図ります。
<p>○ 学校施設の老朽化が進む</p> <p>本市の小中学校は、建築後 40 年以上経過した校舎の保有面積が 4 割を超え、学校施設の老朽化が顕著となっています。</p> <p>また、旧町村において建築された校舎は、建築時期がほぼ同じであるため、更新時期が集中する課題があります。</p>	<p>3rd. 長寿命化計画に基づく学校施設の改修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各施設の老朽化に応じた大規模改修や、長寿命化改修を計画的に行い、学校施設の機能維持を図ります。
<p>○ 食育・地産地消の実施</p> <p>安曇野市学校給食理念(目標)を制定し、学校給食法に定める目的や目標を達成するため取り組みを行っています。</p> <p>月に一度、「安曇野の日」献立による給食を実施し、旬の安曇野産食材を取り入れ、地域の伝統食や季節の行事食などの提供に努めています。</p>	<p>4th. 安曇野型食育・地産地消の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちと学校給食に携わる農家の人たちが給食を一緒に食べる交流給食を通じて、食材への興味や給食に携わる人たちに対する感謝の心を育てます。 ・ 小中一貫教育に向けて取り組む中で、アレルギー対応など継続的な支援を実現します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
主体的・対話的で深い学び達成度（％）	78.6 (R3)	90.0	全国学力・学習状況調査結果
新規不登校児童生徒の在籍率（％）	1.8 (R3)	1.3	
学校給食での地場産物(安曇野産)の使用割合（％）	25 (R3)	27	天候などによる影響あり

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する 共生のまち	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校やいじめ、対人関係に悩む子が気軽に相談できる体制を整備し、「楽しい、学びたい」と思える学校づくりを推進します。
文化・芸術中核都市の 実現	<ul style="list-style-type: none"> ・公私立の美術館・博物館と連携し小中学校への出前展覧会「学校ミュージアム」や収蔵資料を活用した体験講座を開催します。 ・安曇野の先人が営んできた暮らしの体験講座や、近代化に尽くした先人たちを学ぶことができる出前講座を開催します。 ・東京藝術大学と連携した事業やプロの能楽師を招く能楽教室など、国内で活躍する芸術家や芸能家と市内の子ども達が交流する機会を創出します。

5-2 家庭・地域との連携の推進

学校と家庭、地域が連携・協働する体制を構築し、地域ぐるみで子どもたちの学びや成長を支えます。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 地域でのつながりが希薄化</p> <p>家族形態の変化、価値観やライフスタイルの多様化など、子どもを取り巻く環境が複雑化するとともに、地域社会におけるつながりが希薄化しています。</p> <p>子どもと地域のつながりを大切にし、支え合う地域社会を維持するためには、学校と地域が連携・協働して行う学校内外における教育活動が必要です。</p>	<p>1st. 家庭や地域と連携した学校運営</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもに必要な資質や能力を育むため、安曇野市コミュニティスクール事業を実施し、学校と地域の連携を推進します。 学校運営協議会を全小中学校に設置し、住民の意見を反映させた運営を行います。 保護者や地域住民による授業支援や地域との合同で行う防災教育など、地域と学校による協働活動に取り組みます。 地域コーディネーターや社会福祉協議会と連携し、地区公民館での情報共有や相談支援などを実施します。
<p>○ 地域ぐるみの青少年育成が必要</p> <p>核家族化、少子化の進展、ICTの革新などにより子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。</p> <p>子どもたちが主体性をもって行動し、人間性や社会性を育むために、地域ぐるみで、家庭、学校と連携した青少年健全育成が必要となっています。</p>	<p>2nd. 地域を主体とした青少年育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区子ども会育成会の活動を支援し、子どもたちが家庭や学校以外でもいきいきと活躍できる場づくりに努めます。 ジュニアリーダー養成講座を開催し、地域と一体となった「子どもの手による子ども会」活動の推進を目指します。 放課後子ども教室に地域の方を講師として招き、世代間交流や体験活動を通して子どもを育み、地域の活性化につなげます。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
延べ参加ボランティア数（人）	1,728（R3）	1,900	市内小中学校で行ったボランティア活動への参加者数
地域学校協働本部連絡会の仕組みを生かして、地域との協働による活動を行った学校数（校）	数値（—）	17（R8）	
放課後子ども教室登録率（％）	24.0（R3）	28.0	
【戦略】小中学校と地域・家庭の連携に関する満足度（％）	28.5（R3）	36.2	総合戦略KPI 市民意識調査で「満足」と「やや満足」の合算割合

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する
共生のまち

- ・ コミュニティスクールを活用し、学校と地域の協働による学校を核とした地域づくりを進めます。
- ・ 地域と学校を繋ぐことで、高齢者などの自己実現や生きがいの場づくりに努め、地域の活力の向上を図ります。

5-3 生涯を通じた学びの創出

すべての人が生涯を通じて主体的に学ぶことができ、また、その成果を地域で活かせる環境を整え、よりよいまちづくりを進めます。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 生涯学習の多様化</p> <p>少子高齢化、長寿社会を迎えるなか、個人の価値観、ライフスタイルも多様化し、すべての人がより豊かに生きるための生涯学習の必要性が高まっています。</p> <p>また、インターネットや SNS の普及などにより、学習スタイルにも大きな変化がみられており、多様な学習スタイルに応えられるような環境づくりが必要になっています</p>	<p>1st. 学習機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館や生涯学習センターの利用満足度の向上を図るため、学習情報の発信や各世代に応じた学習機会の提供を積極的に行います。 ・ インターネットや SNS の活用講座などを開催し、生涯学習に取り組みやすい環境づくりを進めます。
<p>○ 学習成果発表機会の創出</p> <p>生涯学習は学んで終わりではなく、その学びの成果を生かすことが重要です。</p> <p>それぞれに活動する市民や団体が必ずしもその成果を発表する機会に恵まれているとはいえないのが現状です。</p> <p>活動発表の場は活動継続のモチベーションの向上、また、発表鑑賞者が活動に取り組むきっかけになることも期待できます。</p>	<p>2nd. 学習成果の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域文化祭などの成果発表の機会の充実、地域貢献に活かせる指導者などの人材育成など、成果を生かす機会の場を積極的につくり出し、活動意欲の向上につなげます。 ・ 市民の日頃の成果を見てもらう場としての施設利用を促し、活動意欲の向上につなげます。
<p>○ 学びの場としての図書館</p> <p>複合施設である本市図書館の特徴を生かし、生涯学習の拠点施設のひとつとして、多様化するニーズに応えるとともに、さまざまな「学び」の場となるようサービスの充実が求められています。</p>	<p>3rd. 図書館サービスの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもから高齢者まで幅広い市民の「学び」に応えるよう、資料の収集及び検索体制の充実を図ります。 ・ 市民ニーズと社会変化に対応したサービス提供に努め、他自治体の図書館や市内生涯学習施設、文化施設、学校などと連携します。 ・ 全ての市民が、身体的・環境的・地域的・経済的な様々なバリアを超えて読書が享受できるよう、電子図書館の活用と環境整備を推進し、「学び」の裾野を広げます。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
生涯学習講座参加者数（人）	11、668（R3）	15、000（R8）	
地域文化祭出演団体数（団体）	96（R3）	117（R8）	
図書館の市民1人当たりの貸出冊数	7.8（R3）	9.0	
レファレンス（相談・調査）の受付件数	4、563（R3）	7、280	

関連するデータ

第2次安曇野市総合計画 市民意識調査報告書【速報版】18 ページ 25 愛着を感じている理由・愛着を感じていない理由
 学校や生涯学習が充実している 4.9% 学校や生涯学習が充実していない 7.5%

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する 共生のまち	<ul style="list-style-type: none"> 各世代の特徴を踏まえ、全世代にわたる生涯学習の取り組みを広げます。 市内在住の外国人が日本語でコミュニケーションを図り生活できるよう、日本語教室を開催します。 誰もが読書活動を享受できるよう、障がい者に対応した資料やサービスの充実に努めます。
文化・芸術中核都市の 実現	<ul style="list-style-type: none"> 文化施設間だけでなく、文化施設以外の公共施設や商業施設などの連携を促進し、市全体で文化芸術活動が行われる環境づくりに取り組みます。 市民の今後の活動展開につなげるため、文化施設での公演や作品展示などの活動支援に取り組みます。

5-4 スポーツを楽しむ環境の充実

安曇野の豊かな環境を活かしたイベントや大会、教室などの開催や障がい者スポーツの推進を通じて多様な交流や地域活力の創出、絆づくりを目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 子どものスポーツの推進</p> <p>市では、平衡感覚や運動神経が発達する幼児期からの基礎体力向上に向け、運動神経を鍛えるトレーニングの拡充に力を入れています。</p> <p>子どもたちの基礎体力の向上には、スポーツが好きと感じることが大切であり、幼児期からスポーツに慣れ親しむ取組が重要です。</p>	<p>1st. 基礎体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児を対象とした運動神経を鍛えるトレーニングを推進します。 ・ スポーツ協会との連携により、スポーツ少年団の活動を支援します。 ・ 親子でスポーツに親しむ機会を創出するため、親子スポーツ教室を開催します。 ・ ジュニアスポーツ選手の育成を支援し、世界で活躍する人材の輩出を促進します。
<p>○ 指導者の不足が問題に</p> <p>少子高齢化が進む中、指導者の高齢化や担い手不足が課題となっています。</p> <p>また、中学校の部活動では、教員だけでは部活動を支えられない状況になりつつあります。</p> <p>また、幅広い世代が個々の興味関心やレベルに合わせて様々なスポーツに触れる機会を促進する総合型地域スポーツクラブ自体の認知度は低い状況であり、認知度を上げる取組が必要です。</p>	<p>2nd. 指導者の育成と組織体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ指導者の資質向上のため、研修会や講習会の充実を図ります。 ・ 地域人材のマッチングにより、部活動の指導者などへの地域人材の活用を図ります。 ・ 公的な指導者の資格取得や資格の継続を支援する仕組みを検討します。 ・ スポーツクラブの周知を図るため、既存の総合型地域スポーツクラブの支援を強化し、地域の関係団体と連携を図ります。
<p>○ 「する」「みる」スポーツを通じた交流の拡大</p> <p>多くの人たちにスポーツを楽しんでもらうためには、幼児から高齢者まで各年齢層に合ったスポーツ活動の機会を増やすことが必要です。</p> <p>年齢層の違いやニーズの多様化に合わせて「する」スポーツに加え、高い技術にも触れることができる「みる」スポーツにも力を入れる必要があります。</p> <p>また、近年は年代を問わず参加できる e スポーツが注目されており、まちおこし的手段として、積極的に検討する必要があります。</p>	<p>3rd. スポーツに触れる機会を増やす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民スポーツ祭の開催を通じて市民間での交流を深め、市としての連帯感を共有します。 ・ 市民がスポーツに参加する機会を拡充するため、総合体育館を拠点としたスポーツ教室などを開催します。 ・ 高いレベルの競技大会を総合体育館で開催することでスポーツを「みる」機会を増やします。 ・ 安曇野市をホームタウンするプロリーグチーム選手と市民の交流機会を創出します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
運動好きの割合	60.6% (R3)	70.0	小学校5年生、中学2年生の男女平均
総合型地域スポーツクラブ参加者数（人）	480 (R3)	1,000人	
施設利用者アンケートによる満足度（%）	63.8% (R3)	70.0%	
【戦略】スポーツを楽しめる環境が概ね整っていると思う市民の割合（%）	36.2(R3)	40.0	総合戦略KPI 市民意識調査内で満足、やや満足と回答した者の割合

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する 共生のまち	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインに配慮した施設の改善を計画的に進めます。 ボッチャなどの障がい者スポーツの普及を推進します。また、障がい者スポーツの大会や指導者講習、ボランティア養成講座などの情報を市民に提供し、参加促進を図ります。
選ばれるまち、安曇野	<ul style="list-style-type: none"> スポーツイベント・試合の開催や中学校などの部活と指導者のマッチングなどを通じた交流人口・関係人口を創出します。
AZUMINO ブランドの 世界発信	<ul style="list-style-type: none"> 国内トップレベルの試合などの誘致などを通じて安曇野市のスポーツ環境を国内外に発信します。
アウトドア・スポーツ の聖地	<ul style="list-style-type: none"> アウトドア・スポーツの振興や、アウトドア・スポーツを通じた域外居住者などとの交流などを図ります。

5-5 文化・芸術活動の推進

市内の美術館・博物館の活動を活性化するとともに、市内外の芸術家などの活躍の場を増やすことで、芸術文化の振興を図ります。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ アーティスト・イン・レジデンスへの注目</p> <p>安曇野市には、公立・私立の美術館・博物館が数多く存立しており、小規模な文化施設が多い中、施設同士が連携を図っています。</p> <p>近年では、表現手段が多様化し、これまで美術館・博物館では扱いきれない作品も現代のアートとして注目されています。</p> <p>芸術家が市内に滞在し、創作をしながら、市民と交流するアーティスト・イン・レジデンスの取り組みは、地域の文化を刺激するとともに、芸術家を育てる事業としても注目されています。</p>	<p>1st. アーティスト・イン・レジデンスの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京藝術大学の学生などを対象としたアーティスト・イン・レジデンスを実施します。 アーティスト・イン・レジデンスの滞在拠点となる施設の整備を行うとともに、サテライトキャンパスの誘致を検討します。 信州アーツカウンシル(長野県文化振興事業団)や(一財)地域創造などの外部の文化団体の事業に参画し、アーティストを招致します。 安曇野市文化振興基金を設け、芸術文化活動の振興に努めます。
<p>○ 文化施設の整備</p> <p>市内には、美術館・博物館・ホールのほか、各地域の交流学习センターなど、展示室を備えた文化施設があります。</p> <p>各文化施設には、学芸員やホールの担当者など、文化事業をサポートする職員を配置し、展示作業や事業の発信などをサポートしています。</p> <p>このような中、市民や芸術家の創作活動の発表機会をいかに確保していくかが、市内の文化芸術環境を育てるうえで重要になります。</p>	<p>2nd. 芸術家・工芸家の発表・発信をサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> 安曇野の芸術家や工芸家が自身のアトリエで作品を紹介する「安曇野スタイル」や、工芸家が作品を展示販売する催し「安曇野さんぽ市」などの事業に、市内の文化施設が参画し、会場や運営に協力します。 美術館や公共施設などで、郷土の芸術家や工芸家を紹介する企画展を開催します。 若手音楽家などを対象とした新進音楽家演奏会などを実施し、新たに芸術に取り組む人材の発掘に努めます。
<p>○ 美術館・博物館の連携</p> <p>安曇野市内にある公私の美術館・博物館 20 館余りが連携した取り組みを続けており、学校への出前展示や講座などを通して、安曇野ゆかりの芸術や文化財に触れる機会を設けています。</p> <p>また、県内においても、県民主体・地域主体の文化芸術活動を支援する信州アーツカウンシルの事業が展開されています。</p>	<p>3rd. 美術館・博物館の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 公私の美術館・博物館で連携した取り組みを実施し、各施設の学芸員の資質の向上を図るとともに、施設の活性化を図ります。 信州アーツカウンシルの事業に参画し、広域で連携した「シンビズム(信州の美術の主義)」事業を実施します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
交流した東京藝術大学の学生など人数（人）	20（R3）	70	楽器演奏指導、漆芸講座、アーティスト・イン・レジデンス
演劇・上映会・コンサートなどの実施件数（件）	12（R3）	15	
新進音楽家の登録者数（人）	52（R3）	75	
美術館の利用者数（人）	45、000（R3）	62、000	

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する 共生のまち	<ul style="list-style-type: none"> 施設にバリアフリーの観点を取り入れます。また、外国籍住民や子ども、障がい者などにもわかりやすい展示を行います。
文化・芸術中核都市の実現	<ul style="list-style-type: none"> サテライトキャンパスの実現に向け、東京藝術大学によるアーティスト・イン・レジデンスを実施します。 文化施設の運営に関わる人材の育成、活動の充実を図ります。

5-6 歴史・文化遺産の継承

先人たちが培った歴史・文化遺産を後世に伝えていくため、地域にある文化財の保存と活用を市民と協働で行い、市民が身近に歴史・文化遺産を親しめるまちをつくりまします。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 文化財保持者の後継者不足が顕著に</p> <p>有形文化財の所有者、無形民俗文化財の保持者などの高齢化が進む中で、後継者不足が顕著であり、地域の文化財・文化の継承が困難になっています。</p> <p>そのような中で、市の文化財をいかに保存・活用していくかが課題となっています。</p>	<p>1st. 保存活用地域計画の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財の保存・活用の方法を示す保存活用計画を策定するとともに、市全体の文化財を対象とした保存活用地域計画を策定します。 NPO法人や市民団体と連携し、文化財の保存と活用に取り組みます。
<p>○ 文書館での資料保存</p> <p>安曇野市域の歴史を後世に伝えるため、歴史的・文化的に価値のある公文書や地域資料などを収集・保存し、市民の利用に供する必要があります。</p> <p>一般向けの古文書講座を開催するなど、文書館の資料への関心を高めてもらう機会を設けています。</p>	<p>2nd. 公文書などの収集と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 重要文書などの選別を進め、地域に伝わる古文書などの地域資料を調査することで、資料の散逸を防ぎます。 市民に文書館の活動への理解や館蔵資料の活用を促すため、文書館の収蔵資料を活用した講座などを開催します。 資料などのデジタル化を進め、市民が利用しやすい環境を整備します。
<p>○ 歴史文化遺産などの魅力の発信</p> <p>後世に伝え、また残していきたい地域の民俗や歴史、自然環境など、安曇野の魅力を、展示や講座、刊行物の頒布などを通じて市民などに親しみやすい形で発信しています。</p>	<p>3rd. 館内の企画と出前講座</p> <ul style="list-style-type: none"> 博物館施設内で、わかりやすい展示や講座を企画します。 学校や公民館などへ直接出向くコンパクト展示や出前講座などを実施していくことで、市民に親しまれる博物館を目指します。
<p>○ 新市立博物館構想の見直しの必要性</p> <p>平成27年度に新市立博物館構想を策定しましたが、社会情勢などの変化により、構想を見直す必要が生じています。</p>	<p>4th. 将来に向けた博物館のあり方の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> 博物館資料の収集・整理・保存・活用をより効果的に行い、利用しやすい施設とするため、新博物館の整備方針を検討します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
博物館の利用者数	15,000 (R3)	18,000	豊科郷土博物館、貞享義民記念館、穂高郷土資料館、白井吉見文学館の合計
博物館施設への講座などの参加者数	4,100 (R3)	4,600	豊科郷土博物館、貞享義民記念館、穂高郷土資料館、白井吉見文学館の合計

関連するデータ

市内の指定・登録文化財の数

■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する共生のまち	<ul style="list-style-type: none"> 博物館の展示や出前講座の内容・見せ方などを工夫し、外国籍住民や子ども、障がい者などにとってわかりやすいものを目指します。
文化・芸術中核都市の実現	<ul style="list-style-type: none"> 文化財に関する講座の実施や学校などでコンパクト展示や出前講座を行うことで、市民に親しまれる博物館を目指します。 新市立博物館構想に基づいて、博物館施設のあり方や、整備に向けた計画を検討します。

6-1 協働によるまちづくり

様々な地域課題を解決し、安全・安心で心豊かに暮らせる地域社会の形成を目指し、安曇野市自治基本条例に基づき、多様な主体による協働によるまちづくりを推進します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 地域における人間関係の希薄化が課題に</p> <p>市民と最も身近な地域コミュニティである区は、地域課題の解決や暮らしやすい地域づくりに取り組んでおり、市は、区を最も重要な地域づくりのパートナーとして位置付けています。</p> <p>しかし、近年では区の活動に対する理解が得られにくくなっており、役員の担い手不足や区脱会世帯の増加を背景に、地域における人間関係の希薄化が課題となっています。</p>	<p>1st. 区への取組支援と区に対する理解促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 区長会では、区のあり方を見直し、持続可能な区の運営を目指す「部制度」の導入を推進しており、市では本制度の導入を支援します。 市へ転入される方や、移住を希望される方などへ、区の役割や重要性について啓発し、区に対する理解を促進します。 地域課題の解決力を高めるため、各区においてNPO 法人や市民が主体の公益的な活動に取り組む団体などとの連携を支援します。
<p>○ 複雑化する地域課題</p> <p>人口減少や少子高齢化が進む中、市民のニーズが多様化しています。</p> <p>複雑化する地域の課題に応えるためには、多様な主体が担い手として関わるのが重要です。</p> <p>そこで、協働のまちづくり推進の拠点として、市が設置する市民活動サポートセンターが拠点となり、行政や区、NPO 法人、地域団体などの連携を促す必要があります。</p>	<p>2nd. 多様な主体の連携を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な主体がつながるきっかけを生み出すため、市民活動サポートセンターの登録団体の増加を図り、交流の機会を創出します。 地域活動に必要な情報を、SNS や動画など多様なツールを用いて発信します。 地域課題の解決に取り組む市民の相談を受け、寄り添った支援に取り組みます。
<p>○ 市民が情報発信しやすい環境が必要</p> <p>市民団体の取り組みや意見を広く伝えることは、市民活動の活発化につながります。そのため、市民が報道機関に情報発信しやすい環境づくりが求められます。</p>	<p>3rd. 市民団体による情報発信の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 市と公益的な活動を行う市民団体が利用できる場を設け、情報発信の拠点とします。 公益的な活動を行う市民団体が実施するイベントなどの情報発信の支援にあたり、SNS、ホームページなどを活用します。
<p>○ 市民ニーズと暮らしの多様化</p> <p>市民ニーズや暮らしの多様化に対応するため、きめ細やかな意見聴取と情報交換の場が求められています。</p>	<p>4th. 対話型の市政懇談会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民と市長が直接対話できる市政懇談会を開催し、市民ニーズの把握に努めます。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
【戦略】区への加入世帯数（世帯）	28、635（R4）	28、785	総合戦略KPI
【戦略】市民活動サポートセンター登録団体数（団体）	184（R3）	220	総合戦略KPI
市ホームページ・SNSの満足度	23.8%（R3）	28.8%	市民意識調査
市民の報道への発信件数（件）	0（R3）	120	※新設の情報発信コーナー利用件数
対話型市政懇談会の開催数（回）	5（R3）	30	累計値 令和4年7月現在

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する 共生のまち	<ul style="list-style-type: none"> 市民活動サポートセンターの機能の充実を図り、市民が主体となって取り組む公益的な活動を支援します。
選ばれ続けるまち、安曇野	<ul style="list-style-type: none"> 区に関する情報の収集・充実を図り、移住検討者に積極的に発信します。 災害時などに最も重要な社会インフラとなる「共助」の地域づくりを進め、地域住民がお互いに支え合い、安全・安心に暮らせるまちとして、市内外へ周知します。

6-2 共生社会の実現

年齢、性別(性自認・性的指向)、国籍、障がいの有無などにかかわらず、多様性を認め合い、責任を分かち合い、自分らしく暮らせる地域社会づくりを目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ ユニバーサルデザインのまちづくり</p> <p>少子高齢化、情報化、国際化などの社会変化、ライフスタイルの多様化などが進む中、人々が持つさまざまな個性や違いにかかわらず、誰もが利用しやすく、暮らしやすい社会となるよう、まちや建物、もの、しくみ、サービスなどを提供していこうとするユニバーサルデザインのまちづくりの視点が求められています。</p>	<p>1st. ユニバーサルデザインのまちの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マイノリティの方が感じる不便さや公共施設・サービスなどの利用しづらさを知り、互いの個性や立場の理解を促進するため、市民や職員、事業者などに対し、ユニバーサルデザインの学びの機会を設けます。 ・ 誰もが利用しやすい空間の整備を推進するため、公共施設のバリアフリー化(ユニバーサルデザイン化)に加え、わかりやすい案内サインの設置などを実施します。
<p>○ 男女共同参画・多様な性を尊重するまちづくり</p> <p>社会における制度や慣行には、性別への固定観念がいまだに残っているといえます。</p> <p>そのため、男女共同参画の視点を、あらゆる分野に浸透させていく必要があります。</p> <p>また、人は生まれたときに割り当てられた性(からだの性)だけで区別できるものではなく、性自認(こころの性)や性的指向、性表現は人それぞれです。性の多様性について多くの人が認識し、理解を深めていくことが必要です。</p>	<p>2nd. 男女共同参画・多様な性を尊重するまちの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 性別による固定的な役割意識の解消を目指し、男女共同参画の普及啓発や審議会などへの女性の参画拡大を推進します。 ・ ドメスティック・バイオレンスなどあらゆる暴力の根絶を目指します。 ・ 多様な性への理解促進と支援を行い、個々の違いに応じたこころと身体健康支援を進めます。
<p>○ 多文化共生のまちづくり</p> <p>外国籍市民を受け入れ、多様な人の集まりになることは、新しい出会い、発見、創造のイノベーションを生み出す原動力になり、市民やまちの成長につながります。</p> <p>外国籍の市民の活躍にあたり、制度の整備だけでなく、互いの文化や慣習の違いの理解が重要になります。</p>	<p>3rd. 多文化共生のまちの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流活動などを通じて文化・慣習などの違いを知り、外国籍市民と日本国籍市民の相互理解を推進します。 ・ わかりやすい日本語・多言語での情報提供を行い、日本語習得や日本の生活ルールや文化・慣習の違いを知ることが出来るよう機会の充実を図ります。
<p>○ 人権を取り巻く社会</p>	<p>4th. 人権教育の推進</p>

<p>人権とは、性別・年齢・社会的身分などにかかわらず、誰もが生まれながらにして持っている、人間として幸せに生きていくための権利です。</p> <p>すべての人々の人権が尊重される社会の実現のため、人権問題についての正しい理解が必要です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人権を尊重し差別のない明るく住みよい安曇野市の実現のため、家庭や地域、学校、職場などあらゆる場において、人権教育活動を推進し、人権に対する理解を促進します。
---	--



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
「多様性の尊重」の重要度調査で「重要である」又は「やや重要である」の割合(%)	71.3 (R3)	80%以上	市民意識調査結果
「性別に関わらず、能力が発揮できる地域である」と感じている人の割合(%)	14.6 (R3)	20%以上	市民意識調査結果
地区公民館の人権学習会の参加者数(人)	586 (R3)	1,000	地区公民館の人権学習会の参加者数

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

<p>誰もが活躍する 共生のまち</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実行委員会を組織し「共生社会づくりフォーラム」を開催、共生社会づくり広報誌を発行するなどして、多様性を認め合い、自分らしく暮らせる共生社会を目指します。
<p>選ばれ続けるまち、安曇野</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の個性と能力が発揮できる共生社会の実現に向けた歩みを進めていきます。
<p>文化・芸術中核都市の実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流団体や多文化共生支援団体、関係課と連携して交流を促進し、異なる文化についての相互理解や国際性豊かな市民感覚を育みます。

6-3 交流活動の推進

国内外の友好都市・姉妹都市との幅広い交流を促進するため、市民が交流事業に参加しやすい環境を作ります。また、互いの地域の魅力や強みを活かした交流活動により、双方の地域活性化につなげていきます。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 国内7つの都市と友好都市提携を締結</p> <p>安曇野市では国内7つの都市と友好都市提携を結び、各種交流を行っているほか、災害時相互支援にも取り組んでいます。</p> <p>交流活動を契機に、住民が互いの地域への関心を高めることで、関係人口の創出や双方地域の活性化に結びつくことが期待されます。</p>	<p>1st. 交流事業への継続的な支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民同士が自主的に行う交流を支援することで、持続的な自発的交流を促します。 ・ 住民同士の往来を伴う交流事業を実施します。 ・ 互いのイベントに相互出展し、双方の地域をPRする機会を創出します。 ・ 市民団体間の交流を推進するため、市民団体の活動を支援します。
<p>○ 交流を通じた青少年の育成を推進</p> <p>子どもの成長において、同世代の子ども達との交流を図ることは、集団の中での自身の役割の認識や考える力を養うことにつながります。</p> <p>そして、異なる環境にある子供たちとの交流は、自分たちが住む地域を知り、郷土愛を育むきっかけとなります。</p>	<p>2nd. 友好都市との青少年交流事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友好都市との青少年交流事業を通して、相互の地域の自然や文化、風習を体感し学ぶ機会を青少年に提供します。 ・ 参加した児童生徒が、生まれ育ったまちへの郷土愛を培うとともに、豊かな個性と広い視野を持った青少年の健全育成を目指します。
<p>○ 農家民宿の展開</p> <p>交流人口の拡大を目的に、市では主に都市部に住む小中学生を招き、農業体験や交流を通じて安曇野を知ってもらう農家民宿を実施しています。</p> <p>ただ、コロナ禍においては中止が続いており、多人数を対象とした農家民宿だけでなく、新たなプログラムを検討する必要があります。</p>	<p>4th. 受入農家の確保とプログラムの研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化などにより農業者が減少している中、受入農家の確保に努めます。 ・ 参加対象や体験できるプログラムの拡充を目指し、ワーケーションと農体験と組み合わせた「アグリワーケーション」を展開します。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
市民団体が主催する国内友好交流都市などとの交流事業数（事業）	0 (R3)	5	市民団体への国内友好交流推進事業補助金交付数
【戦略】農家民宿受入生徒など数（人）	0 (R3)	1、300	総合戦略 K P I

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する共生のまち	・ 交流活動へさまざまな分野や年代からの参加を促すことで、それぞれの興味や関心を活かした多様な交流活動を促進します。
選ばれ続けるまち、安曇野	・ 国内交流・国際交流を継続して実施することにより、関係人口・交流人口を創出します。 ・ 農家民泊の推進により、関係人口創出の創出に取り組みます。
AZUMINO ブランドの世界発信	・ 友好都市や姉妹都市との交流を通じて、安曇野市の魅力を PR（自然環境、農産物、文化など）します。
文化・芸術中核都市の実現	・ 友好都市や姉妹都市との交流を通じて、多様な文化に触れ、理解を深める機会を創出します。
アウトドア・スポーツの聖地	・ 国内・国際交流の際にカヌーなどのアウトドア・スポーツの体験などを取り入れることで、市民のアウトドア・スポーツに対する関心を高めるとともに、安曇野のアウトドア・スポーツ環境の PR を図ります。

6-4 デジタル技術を活用した行政変革

デジタル技術を活用し、業務の効率性や組織の生産性の向上を図るとともに、行政サービスの利便性を高め、市民の生活の質の向上を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 業務効率化や生産性向上が求められる</p> <p>人口減少とともに職員数の減少が避けられない中、市民ニーズや地域課題の多様化・複雑化が進んでいます。</p> <p>限られた人的資源の中で、行政サービスの質を向上・維持していくためには、業務の効率化や組織の生産性向上が必要です。</p>	<p>1st. デジタル技術の積極的な導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 業務の見直しとともに、デジタル技術を積極的かつ効果的に導入することで、業務の効率化や生産性の向上を図ります。 ・ 情報システムの標準・共通化やクラウドサービスの利用など情報基盤の整備を推進します。 ・ ペーパーレス化、電子決裁などを進めるとともに、テレワーク環境を整えるなど、職員の多様な働き方を支援します。
<p>○ 新型コロナウイルス感染症による社会の変容</p> <p>新型コロナウイルス感染症により「人との接触を避ける」非対面での行政手続きサービスなどの利用拡大が求められています。</p> <p>デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革する「DX(デジタルトランスフォーメーション)」は、市民目線でサービスの提供方法自体を変えていくものと解釈し、その動きを加速させる必要があります。</p>	<p>2nd. 暮らしの利便性を向上させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政手続きの利便性向上を図るため、マイナポータルを利用した手続きオンライン化やWEB サイト上での申請案内の充実、手続き時の窓口滞在時間の縮減などに取り組みます。 ・ 時間と距離に左右されずに行政サービスを提供する「デジタル市役所」を実現し、市民の生活の質の向上を目指します。 ・ 多言語化への対応を図り、外国人の方が利用しやすい行政サービスを提供します。
<p>○ デジタル・デバインド(情報格差)の拡大</p> <p>インターネットなどの情報通信技術が普及する中、高齢者にはデジタル活用に不安のある方は少なくありません。</p> <p>また、「電子申請ができること自体を知らない」など、その恩恵を得られる人と得られない人との格差が拡大しています。</p>	<p>3rd. 誰一人取り残さない行政サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民間企業などと連携し、高齢者などを対象としたスマートフォンなどの活用講座の開催によるデジタルツールの利用促進を図ります。 ・ 対象者の場所へ出向いて講座を開催するなど、全ての市民が恩恵を受けられる環境をつくります。



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
行政手続きのスマート化（件）	0（R3）	50	行政手続きのスマート化：オンライン申請、WEB サイトなどによる申請支援、窓口予約など手続きにかかる滞在時間の短縮などの仕組みの導入
L I N E 登録者数（人）	37,000（R4）	50,000	友だち登録者数

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する 共生のまち

- ・ デジタル市役所の実現により、高齢者や障がい者、外国人など、あらゆる人が利用しやすい行政サービスを提供します。
- ・ 来客の多い市役所窓口へ翻訳システムを導入するなど、相談体制の充実を図ります。
- ・ デジタル技術の利用にあたり、障壁となる情報格差の解消を図り、デジタル技術の恩恵を誰もが受けられる環境を目指します。

6-5 市民の視点に立った行財政運営

少子高齢化による人口減少を見据えつつ、持続可能な行財政運営を目指します。

■ 現状と今後&取組の方向

現状と今後	取組の方向
<p>○ 職員の質の向上が求められる</p> <p>人口の減少とともに、市の職員数の縮減は避けられません。</p> <p>限られた職員数の中で、行政サービスの質を向上・維持していくためにも、職員の質の向上が求められています。</p>	<p>1st. 自ら考え、行動する職員の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的に自らの知識や能力を高めることを常に意識し、さまざまな課題・問題を解決するために「自ら考え、行動する」職員の育成に努めます。
<p>○ 健全財政の堅持</p> <p>高齢化の進行などによる扶助費の増加や生産年齢人口の減少に伴う税収の減少、老朽化が進む公共施設への対応などにより、厳しい財政状況が続くことが見込まれます。</p> <p>今後も継続的に歳出予算全体を見直す中で、最少の経費で最大の効果を挙げる必要があります。</p>	<p>2nd. 持続可能な財政基盤の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 時代の変化に柔軟に対応するとともに必要な事業に着実に取り組むことができるよう、「計画行政の推進」、「健全財政の堅持」を基本に将来を見据えた行財政運営に努めます。
<p>○ 滞納整理の実施</p> <p>税負担の公平性と自主財源の確保を図るため、課税客体的確な把握に努めるとともに、滞納者に対しては財産調査を行い、滞納整理を実施しています。</p> <p>義務的経費を中心とした財政需要の増加など、厳しい財政状況が見込まれることから、計画的・効率的な財政運営を行う必要があります。</p>	<p>3rd. 収納率のさらなる向上に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 課税対象的的確な把握に努めるとともに、徴収対策の強化、滞納整理に係る効率化を図ります。 納税環境の整備(口座振替やキャッシュレス決済など)を図り、収納率のさらなる向上を図ります。
<p>○ 財産の効率的な運用</p> <p>取得時の役割を終了した普通財産のうち、特に未利用の財産について、効率的なマネジメントを進めています。</p> <p>また、自然環境保護の観点から、環境に配慮した車両の導入を進める必要があります。</p>	<p>4th. 先を見据えた財産の管理・更新</p> <ul style="list-style-type: none"> 未利用財産は、他の施設への活用の可能性など再配置の検討を行います。 市所有施設は、整備計画に沿った修繕を実施し、故障などのトラブルを抑制します。 公用車の更新にあたり、電気自動車やハイブリット車などへの計画的な更新を進めます。
<p>○ 競争性・透明性のある入札・契約</p> <p>入札制度の運用は、できる限り安価で調達する原則を踏まえつつ、地域の活性化に向けた受注機会の拡大を図る必要があります。</p>	<p>5th. 社会情勢に応じた制度の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般競争入札の拡大により、公平性や競争性の確保と、市内事業者の受注機会の確保の両立に取り組めます。

<p>○ ふるさと納税が全国的に加速</p> <p>全国の自治体において、関係人口の創出や特産品のPR、自主財源確保を目的に、ふるさと納税が利用されており、本市においても、ふるさと納税を通じたPRを継続していく必要があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 透明かつ公平な品質の確保に努めます。 <p>6th. 返礼品を活かしたPRの強化</p> <p>ふるさと納税を通じて地場産品や工業製品などのPRに努める中で、財源確保とともに安曇野市の知名度アップと産業振興を図ります。</p> <p>また、アウトドア・スポーツ関連の返礼品の充実など、本市のイメージ構築の一助とします。</p>
---	---



■ 指標・目標値

指標項目（単位）	R4 現状値	R9 目標値	備考
市職員の通信教育講座受講割合（％）	16.3 (R3)	18.0	
実質公債費比率（％）	10.0 (R3)	8.6	
市税現年収納率（％）	99.59 (R3)	99.6	

関連するデータ



■ 価値創出プロジェクトに関連した取組

<p>誰もが活躍する 共生のまち</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「障がい者の雇用の促進などに関する法律」の趣旨に基づき、障がい者雇用を促進します。
<p>選ばれ続けるまち、安曇野</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少社会が進む中、時代に即した行財政運営を行い、安曇野市を発展・持続させます。